平成30年度
事 業 報 告 書

アルベルト・カルペンティール宗教画ギャラリー所蔵
「聖ドミニコの生涯　～弟子を布教に出す～」

学校法人聖カタリナ学園

目　　次

Ⅰ．　はじめに　・・・　1

Ⅱ．　法人の概要　・・　2

（1）名　　　　称
（2）所　　在　　地
（3）認 可 年 月 日
（4）理　　事　　長
（5）設置する学校・学部・学科等（平成 30 年 5 月 1 日現在）
（6）建 学 の 精 神
（7）法 人 の 目 的
（8）法 人 の 沿 革
（9）役員等の概要（平成 30 年 5 月 1 日現在）
（10）教職員の概要（平成 30 年 5 月 1 日現在）
（11）設置する学校の学部学科、入学･募集定員数、学生等数の状況（平成 30 年 5 月 1 日現在）

Ⅲ．　事業の概要　・・　7

（1）学園ガバナンスの充実・強化
（2）設置校別事業の概要

Ⅳ．　当期に行った主な事業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　37

（1）固定資産の取得状況（第1号基本金組入れ対象事業）
（2）教育研究経費の主な事業実績
（3）管理経費の主な事業実績

Ⅴ．　財務の概要　・・　38

（1）平成30年度決算概要
（2）平成30年度計算書類
　1）資金収支計算書（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）
　　※活動区分資金収支計算書（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）
　2）事業活動収支計算書（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）
　3）貸借対照表（平成 31 年 3 月 31 日現在）

【参考】 学校法人会計基準について

Ⅰ．はじめに

「人生 100 年時代」の到来が叫ばれる昨今、ICT、IoT、AI、Society5.0、ロボティクス、ビッグデータなど、時代の変容を象徴するような言葉が私たちの日常に急速に溶け込み、日々の生活に革新的な変化をもたらし続けています。

このような中、教育を取り巻く環境に目を転じますと、「超・少子高齢社会」を支える知の基盤として、高等教育をはじめとする学校教育の在り方に関する論議が盛んに行われており、また、その一端を担う私学に対しても、経営改善などに係る方針や施策が次々と行政府から発信されています。中でも、中央教育審議会（文部科学省）が 2018 年 11 月に答申した「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」においては、2018 年生まれの子供たちが大学を卒業する 22 年先の未来を想定し、高等教育の目指すべき姿について論じ、「学修者本位の教育への転換」を標榜する提言を行っています。また、2019 年 1 月には、学校法人制度改善検討小委員会（文部科学省）より「学校法人制度の改善方策について」が公表され、ガバナンスの改善・強化や情報公開の推進、経営強化の取り組みなど、私立学校法等の関連法の改正を伴う重要な施策が示されました。ほかにも、地球規模の取り組みともいえる SDGs や政府の進める働き方改革などは、社会の枠組み、ひいては教育現場の在り方を大きく変容させる動きとして、絶えず注視することが必要な情勢にあります。

こうした変化のうねりの中で、本学園の 20 年先、30 年先の将来像を描くことは容易ではありませんが、初等教育から高等教育までを担う設置校 10 校（1 大学・1 短期大学・3 高等学校・5 幼稚園）は、「建学の精神」を共有しながら、学生・生徒・園児たち一人ひとりの人格形成やキャリア形成をきめ細かく支援し、「人生 100 年時代」の社会に貢献できる人材の育成に尽力して参ります。

また、ガバナンスの強化に向けて、理事会の構成（選任条項）を見直し、次年度より新たに外部理事を迎え、理事会運営のさらなる充実を図るほか、現在、全学的に取り組んでいる中・長期経営計画による経営改善を今後確実に前進させ、教育事業体としての永続性を担保するに足る財務基盤の確立を目指していく所存です。

厳しい道程となることが想定されますが、設置校 10 校が、ある時は連携しながら、ある時は個々のアイデンティティを活かしながら、社会的希求である「well-being（よりよく生きる）」の実現に貢献して参りたく、今後一層のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2019（平成 31）年 3 月

学校法人聖カタリナ学園
理事長　中田　婦美子

Ⅱ. 法人の概要

1. 名　　称　学校法人聖カタリナ学園（St. Catherine Educational Institution）

2. 所　在　地　愛媛県松山市北条660番地

3. 認可年月日　1951年(昭和26年)3月8日

4. 理　事　長　中田　婦美子

5. 設置する学校・学部・学科等

（平成 30 年 5 月 1 日現在）

NO	学　校　名	学(校・園)長名	設置認可年月日	所　在　地	男女別
1	聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 ・社会福祉学科 ・人間社会学科 ・健康スポーツ学科 ・看護学科	ホビノ・サンミゲル	S62 年 12 月 23 日	愛媛県 (北条ｷｬﾝﾊﾟｽ) 松山市北条 (松山市駅ｷｬﾝﾊﾟｽ) 松山市永代町	共学校
2	聖カタリナ大学短期大学部 ・保育学科	ホビノ・サンミゲル	S41 年 1 月 25 日	愛媛県 松山市北条	共学校
3	聖カタリナ学園高等学校 ・普通科 ・総合学科 ・看護科 ・看護専攻科	渥見　秀夫	S23 年 3 月 21 日	愛媛県 松山市藤原町	共学校
4	京都聖カタリナ高等学校 ・普通科 ・看護科 ・看護専攻科	園田　研一	S26 年 10 月 17 日	京都府 南丹市園部町	共学校
5	光ヶ丘女子高等学校 ・普通科 ・国際教養科	小林　三佐子	S38 年 3 月 20 日	愛知県 岡崎市大西町	女子校
6	聖マリア幼稚園	梅木　信子	S26 年 3 月 8 日	愛媛県 新居浜市繁本町	共学校
7	聖家族幼稚園	江川　由美子	S29 年 3 月 20 日	京都府 南丹市園部町	共学校
8	聖カタリナ幼稚園	星野　香里	S38 年 3 月 20 日	愛知県 岡崎市大西町	共学校
9	ロザリオ幼稚園	田口　裕子	S40 年 3 月 15 日	愛媛県 松山市室町	共学校
10	聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園	藤井　澄子	S46 年 3 月 26 日	愛媛県 松山市北条	共学校

6. 建 学 の 精 神

本学は、聖ドミニコ宣教修道女会の設立によるもので、キリスト教の世界観、修道会の創立者聖ドミニコの「真理を観想し、観想の実を他に与える」という精神、そして、聖ドミニコの精神に従って生きたシエナの聖カタリナの模範と教訓を土台として、「建学の精神」を次のように定めている。

1. 本学は、キリスト教的世界観と教育理念に基づいて、世界の平和と人類の共通善を促進する人間の教育を目的とする。
2. 本学は、創立者聖ドミニコの強調した「真理の探求」を通して、普遍的な価値観と高い徳性を有する人間を育成する。
3. 本学は、保護者シエナの聖カタリナの精神と学識にならい、神の愛と人への奉仕に生涯を捧げる人間を育成する。

7. 法 人 の 目 的

学校法人聖カタリナ学園は、カトリック教の精神を奉じ、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、世界の平和と人類の共通善を促進する人材を育成することを目的としている。

8. 法 人 の 沿 革

1924	(大正 13)年	9 月	松山美善女学校設置認可(聖ドミニコ宣教修道女会)
1942	(昭和 17)年	1 月	財団法人松山女子商業学校と改称
1948	(昭和 23)年	4 月	松山女子商業高等学校と改称(商業科)、新制中学校併設
1951	(昭和 26)年	3 月	学校法人聖カタリナ学園に改組
1951	(昭和 26)年	4 月	聖マリア幼稚園(愛媛県新居浜市)を学園に包括
1951	(昭和 26)年	10 月	学校法人清香学園菊花女子高等学校を吸収合併、聖家族女子高等学校設置（家庭科)(京都府船井郡園部町)
1952	(昭和 27)年	4 月	聖家族女子高等学校に普通科増設
1954	(昭和 29)年	4 月	聖家族幼稚園設置(京都府船井郡園部町)
1963	(昭和 38)年	4 月	光ヶ丘女子高等学校設置(普通科)(愛知県岡崎市)、聖カタリナ幼稚園設置（愛知県岡崎市)
1965	(昭和 40)年	4 月	学校法人拓川学園拓川幼稚園を吸収合併　ロザリオ幼稚園と改称（愛媛県松山市)
1965	(昭和 40)年	4 月	聖カタリナ幼稚園教員養成所設置(愛媛県松山市)、昭和 42 年 3 月、同養成所廃止
1966	(昭和 41)年	1 月	文部大臣所轄の法人となる聖カタリナ女子短期大学設置（幼児教育科、食物科)
1966	(昭和 41)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学開学、幼児教育科、食物科(愛媛県北条市)
1966	(昭和 41)年	4 月	松山女子商業高等学校に普通科増設
1967	(昭和 42)年	4 月	松山女子商業高等学校に衛生看護科増設
1968	(昭和 43)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学に音楽科増設(入学定員 50 名)、幼児教育科を児童教育科に名称変更
1968	(昭和 43)年	4 月	松山女子商業高等学校を聖カタリナ女子高等学校と改称、併設中学校閉校
1970	(昭和 45)年	4 月	聖カタリナ女子高等学校に衛生看護専攻科(2 年制)設置
1971	(昭和 46)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学児童教育科を児童教育学科、食物科を食物学科に改称、児童教育学科(50 名)を初等教育学専攻(50 名)、幼児教育学専攻(50 名)に分離し、入学定員変更
1971	(昭和 46)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学附属幼稚園設置
1976	(昭和 51)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学児童教育学科幼児教育学専攻の入学定員を変更(50 名→100 名)
1977	(昭和 52)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学に専攻科音楽専攻(1 年制)設置
1980	(昭和 55)年	4 月	聖家族女子高等学校に衛生看護科設置
1983	(昭和 58)年	3 月	聖家族女子高等学校家庭科廃止
1987	(昭和 62)年	12 月	聖カタリナ女子大学設置(入学定員 100 名)
1988	(昭和 63)年	4 月	聖カタリナ女子大学(社会福祉学部社会福祉学科)開学
1990	(平成 2)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学児童教育学科の専攻（初等教育学専攻、幼児教育学専攻)を廃止し、幼児教育学科に名称変更
1990	(平成 2)年	4 月	法人の主たる事務所を愛媛県北条市北条 660 番地に変更

1994	(平成 6)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学食物学科を食物栄養学科に名称変更及び入学定員変更(150 名→90 名)
1994	(平成 6)年	4 月	聖カタリナ女子大学入学定員変更(100 名→160 名)
1995	(平成 7)年	3 月	聖カタリナ女子短期大学食物学科廃止
1995	(平成 7)年	4 月	聖カタリナ女子大学キリスト教研究所及び人間文化研究所設置
1996	(平成 8)年	4 月	聖家族女子高等学校普通科入学定員変更(90 名→80 名)
1997	(平成 9)年	4 月	聖カタリナ女子大学社会福祉学部社会福祉学科編入学定員設定(3 年次 10 名)
1999	(平成 11)年	4 月	聖家族女子高等学校に衛生看護専攻科(2年制)設置(入学定員 40 名)
2000	(平成 12)年	4 月	聖カタリナ女子大学社会福祉学部社会福祉学科を社会福祉専攻(入学定員 140 名)と介護福祉専攻(入学定員 20 名)に専攻分離
2000	(平成 12)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学食物栄養学科を健康栄養学科に名称変更し、食物栄養専攻(50 名)と食物健康専攻(40 名)に専攻分離
2001	(平成 13)年	4 月	聖家族女子高等学校を京都聖カタリナ女子高等学校と改称
2001	(平成 13)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学に幼児教育学科及び音楽科を統合改組して保育学科を設置し、乳幼児教育専攻(100 名)と音楽専攻(50 名)に専攻分離
2001	(平成 13)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学専攻科音楽専攻廃止
2002	(平成 14)年	4 月	聖カタリナ女子高等学校衛生看護科を看護科(入学定員 80 名)に名称変更し、5 年一貫教育による看護師養成を導入
2002	(平成 14)年	4 月	京都聖カタリナ女子高等学校衛生看護科を高等看護科(入学定員 40 名)に名称変更し、5 年一貫教育による看護師養成を導入
2002	(平成 14)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学音楽科廃止
2003	(平成 15)年	9 月	聖カタリナ女子短期大学幼児教育学科廃止
2004	(平成 16)年	4 月	聖カタリナ女子大学を男女共学とし、聖カタリナ大学に名称変更 聖カタリナ大学社会福祉学部に福祉経営学科(入学定員 100 名、3 年次編入学定員 10 名)を設置し、社会福祉学科社会福祉専攻の入学定員変更(140 名→100 名)
2004	(平成 16)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学を男女共学とし、聖カタリナ大学短期大学部に名称変更 聖カタリナ大学短期大学部保育学科及び健康栄養学科の各専攻(乳幼児教育専攻、音楽専攻、食物栄養専攻、食物健康専攻)を廃止し、入学定員変更(保育学科:150 名→100 名、健康栄養学科 90 名→50 名)
2004	(平成 16)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学附属幼稚園を聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園に名称変更
2005	(平成 17)年	1月	市の合併により、法人の主たる事務所の住所表記を愛媛県松山市北条 660 番地に変更
2005	(平成 17)年	4 月	京都聖カタリナ女子高等学校に福祉科(入学定員 40 名)を設置し、普通科の入学定員変更(80 名→40 名) 高等看護科を看護科に名称変更
2006	(平成 18)年	1 月	町の合併により、法人の従たる事務所の住所表記を変更 京都府船井郡園部町美園町一号 78 番地 → 京都府南丹市園部町美園町一号 78 番地
2006	(平成 18)年	4 月	京都聖カタリナ女子高等学校の福祉科を男女共学とし、京都聖カタリナ高等学校に名称変更
2007	(平成 19)年	4 月	京都聖カタリナ高等学校の看護科を男女共学化
2008	(平成 20)年	4 月	聖カタリナ大学に人間健康福祉学部を設置し、社会福祉学科[社会福祉専攻(入学定員 100 名、編入学定員 10 名)、介護福祉専攻(入学定員 20 名)]と健康福祉マネジメント学科[福祉マネジメント専攻、健康スポーツマネジメント専攻](入学定員 100 名、編入学定員 10 名)を設置(これに伴い、社会福祉学部は在学生の卒業を待って廃止)
2008	(平成 20)年	4 月	京都聖カタリナ高等学校の普通科にコース制(フードカルチャーコース、マルチメディアコース、キッズライフコース)を導入し、男女共学化
2008	(平成 20)年	4 月	光ヶ丘女子高等学校の普通科から国際コースを分離し、国際教養科(入学定員 120 名)設置(それに伴い、普通科の入学定員 195 名に変更)
2009	(平成 21)年	4 月	聖カタリナ大学短期大学部健康栄養学科の学生募集を停止
2010	(平成 22)年	4 月	聖カタリナ大学短期大学部健康栄養学科廃止

2011	(平成 23)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部に人間社会学科(入学定員 50 名)を設置(これに伴い、人間健康福祉学部の入学定員を 210 名に変更)
2012	(平成 24)年	4 月	聖カタリナ女子高等学校に総合学科(入学定員 450 名)を設置し、商業科の学生募集を停止
2012	(平成 24)年	9 月	聖カタリナ大学社会福祉学部廃止
2013	(平成 25)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部の入学定員を社会福祉学科[社会福祉専攻(入学定員 60 名、編入学定員 8 名)、介護福祉専攻(入学定員 20 名)]、健康福祉マネジメント学科[福祉マネジメント専攻、健康スポーツマネジメント専攻](入学定員 60 名、編入学定員 8 名)、人間社会学科(入学定員 50 名、編入学定員 4 名)に変更
2014	(平成 26)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部健康福祉マネジメント学科の学生募集を停止 聖カタリナ大学人間健康福祉学部に健康スポーツ学科(入学定員 60 名)を設置 聖カタリナ女子高等学校商業科廃止
2016	(平成 28)年	4 月	聖カタリナ女子高等学校の普通科及び総合学科を男女共学とし、聖カタリナ学園高等学校に名称変更。同校の普通科及び総合学科の入学定員変更(普通科 200 名、総合学科 300 名) 京都聖カタリナ高等学校の看護科の入学定員を64名に変更し、福祉科の生徒募集を停止
2017	(平成 29)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部に看護学科[入学定員 80 名]を設置(平成 28 年 8 月 31 日認可)し、入学定員を社会福祉学科[社会福祉専攻(入学定員 50 名、編入学定員 8 名)、介護福祉専攻(入学定員 20 名)]に変更
2018	(平成 30)年	4 月 9 月	京都聖カタリナ高等学校福祉科を廃止 聖カタリナ大学人間健康福祉学部健康福祉マネジメント学科を廃止

9. 役員等の概要

(平成 30 年 5 月 1 日現在、単位:人)

内　訳	理　事	監　事	評議員
定　　数	9	2	19
現　　員	9	2	19

10. 教職員の概要

(平成 30 年 5 月 1 日現在、単位:人)

学 校 の 名 称	教　員		職　員		合　計	
	専 任	非常勤	専 任	非常勤	専 任	非常勤
法人本部事務局	―	―	6	1	6	1
聖カタリナ大学	58	92	29	30	87	122
聖カタリナ大学短期大学部	12	16	7	6	19	22
聖カタリナ学園高等学校	79	76	12	25	91	101
京都聖カタリナ高等学校	26	17	5	11	31	28
光ヶ丘女子高等学校	60	33	7	20	67	53
聖マリア幼稚園	13	8	0	7	13	15
聖家族幼稚園	6	8	1	4	7	12
聖カタリナ幼稚園	11	8	0	1	11	9
ロザリオ幼稚園	11	8	1	5	12	13
聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園	6	3	0	6	6	9
合　　計	282	269	68	116	350	385

11. 設置する学校の学部学科、入学・募集定員数、学生生徒等数の状況

（5 月 1 日現在、単位：人）		2018（平成 30）年度		［参］2019(令和元)年度	
学 校 の 名 称	学　科	入学・募集定 員	現 員	入学・募集定 員	現 員
聖カタリナ大学人間健康福祉学部	社会福祉学科	70	208	70	189
	健康福祉ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	―	2	（廃止）	―
	人間社会学科	50	212	50	218
	健康スポーツ学科	60	220	60	220
	看護学科　※H29 新設	80	133	80	184
	計	260	775	260	811
聖カタリナ大学短期大学部	保育学科	100	201	100	167
	計	100	201	100	167
聖カタリナ学園高等学校	普通科	200	375	200	325
	総合学科	240	783	240	653
	看護科	40	136	40	113
	看護専攻科	（80）	102	（80）	108
	計	480	1,396	480	1,199
京都聖カタリナ高等学校	普通科	40	106	40	95
	看護科	64	156	64	136
	看護専攻科	（40）	95	（40）	89
	計	104	357	104	320
光ヶ丘女子高等学校	普通科	195	872	195	906
	国際教養科	120	331	120	325
	計	315	1,203	315	1,231
聖マリア幼稚園			241		230
聖家族幼稚園			62		75
聖カタリナ幼稚園			214		215
ロザリオ幼稚園			160		162
聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園			51		53
合　　計			4,660		4,463

※聖カタリナ大学人間健康福祉学部健康福祉マネジメント学科（平成 26 年度より募集停止）は平成 30 年 9 月に、京都聖カタリナ高等学校福祉科（平成 28 年度より募集停止）は平成 30 年 4 月に、それぞれ廃止となった。

Ⅲ. 事業の概要

1　学園ガバナンスの充実・強化

1. 理事会・評議員会の開催状況

本年度は、理事会が 18 回、評議員会が 6 回開催され、役員の選任、事業計画や予算・決算などのほか、人事（採用）計画、土地・建物・設備などの固定資産の更新・取得、学則や就業規則、奨学制度等に係る各種規程の制（改）定、また、全設置校で取り組んでいる中・長期経営計画など経営改善に係る重要事案や設置校において発生した問題事案等について、適宜審議・報告された。

なお、理事・評議員及び監事の出席状況は各回良好で、欠席理事・評議員がある場合には、議事録(写)により遺漏無く審議結果の報告を行っている。

2. 理事の選任条項変更に係る寄附行為を変更

多様な人材の活用による経営力強化のため外部理事の登用を拡充する必要があるとして、寄附行為第 10 条第 1 項に定められている「理事の選任条項」の整理再編を行い、平成 30 年度 1 月理事会・評議員会（平成 31 年 1 月 26 日開催）において、係る寄附行為の変更（理事の選任条項変更）が付議・承認された後、所定の寄附行為変更認可申請手続き（文部科学省）を経て、平成 31 年 4 月 1 日付にて施行されることとなった。

3.「第 2 期中・長期経営計画」3 年目の取り組みが進行

「第 2 期中・長期経営計画（平成 28～32 年度）」の 3 年目に当たる本年度は、「教職員一人ひとりが中計推進の原動力⇒オーナーシップ（当事者意識）の醸成」をテーマに取り組みを進めた。

PDCA サイクルの実質化を目指す上でのマイルストーンとして位置付けている「中・長期経営計画委員会（推進担当者会議）」の高校部会を平成 30 年 6 月 29 日(金)に、大学短大部会を 7 月 2 日(月)に、それぞれ開催したほか、学園全体の本委員会を 11 月 22 日(木)に開催し、経営改善に係る設置校共通の重要テーマについて協議を行った。

また、一部の設置校においては、目標と実績との乖離状況に鑑み、あるいは、人事や施設設備整備等に係る事業計画を変更したことから、「第 2 期中・長期財務計画表」の修正を行い、適宜、理事会において付議・承認された。

なお、「中・長期経営計画に関する規程」は、平成 25 年 12 月 21 日に施行され、その後一度の改正を経て運用されてきたが、より実効性を求める中で、推進担当者会議における部会制の導入など、規程の一部を現状に合わせて変更する必要が生じたため、係る改正を行い、平成 31 年 3 月 30 日付にて施行となった。

4.「第 2 期中・長期経営計画」グランドデザインにおける重要課題の再整理

文部科学省が設置する「学校法人運営調査委員会」より発出された学校法人の経営指導のあり方に関する通知や、同省より公表された「学校法人制度の改善方策について」などを踏まえ、「第 2 期中・長期経営計画」の学園全体に係る記載内容を一部更新するとともに、グランドデザインとして纏め直し、新たに【本学園を取り巻く外部環境俯瞰】及び【本学園が取り組むべき課題】を追加し、再整理を行った。本件については、平成 30 年度 3 月理事会・評議員会（平成 31 年 3 月 30 日開催）において承認された。

5. 理事長ヒアリングを実施

各設置校の運営状況の確認・点検や理事長（法人本部）と各設置校との情報・意見交換を主な目的に、理事長ヒアリングが、平成 30 年 6 月 5 日（火）～9 月 21 日（金）の間、全設置校を対象に実施された。

本年度はヒアリング対象者の見直しを行い、3 高等学校及び 5 幼稚園の対象者は従前通り校（園）長を

はじめとする管理職者としたが、大学・短期大学部においては、より運営現場に近い教職員の声を聴くために、各学科長や課長職者を対象として実施した。

なお、理事長ヒアリングの内容については、法人本部において内容記録として取り纏められたほか、平成 30 年度 9 月理事会（平成 30 年 9 月 28 日開催）において、理事長より設置校別に総括された。

6. 三様監査の充実

1）監査人監査

本年度上半期財務状況に係る監査人監査は、平成 30 年 10 月 17 日(水)～11 月 9 日(金)の間で設置校別に実施され、監査結果報告書に纏められ、監事監査結果とともに平成 30 年度 11 月理事会・評議員会(平成 30 年 11 月 23 日開催)において報告された。

また、本年度決算に係る監査人監査は、設置校別予備監査、その後の決算監査及び学園全体の集計監査を経て監査報告書として取り纏められ、事業報告書や計算書類とともに、次年度 5 月理事会・評議員会(令和元年 5 月 25 日開催予定)において報告される予定にある。

なお、京都聖カタリナ高等学校においては、担当公認会計士による期中監査が前年度から適宜実施されてきたが、会計業務全般における改善や事務局体制の整備が大きく進んだことから、本年度の期中監査をもって一区切りとすることとした。

2）監事監査

本年度の監事監査は、「平成 30 年度監事監査計画」に基づき実施され、監事の執務日（原則週 1 回）のほか、中・長期経営計画委員会等、経営上の重要な会議への出席などを通して、学園経営に係る情報収集や課題の抽出等が行われた。

また、主任監事は、平成 30 年 10 月 29 日(月)に開催された文部科学省主催「平成 30 年度学校法人監事研修会」(兵庫会場)に参加後、翌 10 月 30 日(火)、京都府内の設置校 2 校（京都聖カタリナ高等学校・聖家族幼稚園）を訪問し、施設見学や経営幹部等との情報・意見交換を行った。

3）内部監査

本年度の内部監査は、「平成 30 年度内部監査計画」に則り、前年度に実施した情報セキュリティに関する事前調査結果に基づき、関連規程やマニュアルの制定・整備など、各設置校における要改善事項への取り組み状況を点検したほか、これまでに実施された監査の指摘（検討）事項に対する改善状況についてフォロー監査を実施した。

なお、これらの内部監査の結果は、平成 30 年度 3 月理事会（平成 31 年 3 月 30 日開催）において報告された。

7.「聖カタリナ学園 設置校連携委員会規程」を制定

本学園における高大連携は、聖カタリナ学園高等学校と聖カタリナ大学・同短期大学部との連携強化を主目的に、高大連携計画委員会及びその下部組織である高大連携実務担当者会議が中心となって、主にイベントの 3 校共同開催等による学生生徒・教職員交流などを進めてきた。しかしながら、いずれの活動においても一部の教職員による取り組みにとどまっている状況を踏まえ、また、近年、各高等学校から、教職員研修や生徒指導、宗教教育、危機管理など、3 校共通の課題について、高校間で情報交換や合同研修等を行う機会を設けてほしいとの要望が出されていることから、設置校間の連携がより円滑に、より全学的な取り組みとして実行されるよう、係る規程を制定し（平成 30 年度 3 月理事会承認、平成 31 年 4 月 1 日施行）、「設置校連携委員会」を新たに発足させることとした。

なお、既存の高大連携計画委員会及び高大連携実務担当者会議については、設置校連携委員会へ吸収（移行）することとした。

8.「働き方改革」への対応が進行

2019（平成 31）年 4 月 1 日から順次施行される「働き方改革関連法」に基づき、教職員の働く環境の健全化を進め、健康で柔軟な働き方を実現するため、各設置校において、非常勤を含む教職員の勤務状

況の実態把握を行うとともに、年 5 日間の年次有給休暇の取得義務化への対応として、就業規則等の見直しを図ったほか、労働時間を客観的に把握するための対策を講じた。

9.「部活動の方針」を制定

国及び本学園が設置する高等学校を所轄する各府県が策定した部活動に係るガイドラインや基本方針等を踏まえ、体育系及び文科系の部活動すべてにおいて、その教育的意義が十分発揮され、生徒の健全な成長や教職員の業務負担の軽減に資するよう、「設置する高等学校に係る部活動の方針」を平成 31 年 2 月 27 日付にて制定した。

10. 聖カタリナ大学看護学科設置に係る寄附行為変更認可後の履行状況について報告

設置 2 年目を迎えた聖カタリナ大学人間健康福祉学部看護学科について、文部科学省私学行政課に対し、平成 30 年 9 月 3 日付にて、「平成 30 年度大学等設置に係る寄附行為（変更）認可後の財政状況及び施設等整備計画の履行状況報告書」を提出した。

11. 全設置校において「財務状況等説明会」を実施

各設置校の専任教職員を対象とする「平成 30 年度財務状況等説明会」を開催し、学園全体及び自校の経営状況に関する理解浸透を図った。大学・短期大学部については法人本部事務局と合同にて平成 30 年 7 月 26 日(木)に、3 高校については各校の職員会議などにおいて 7 月末日までに、5 幼稚園については理事長ヒアリングの前後の時間を利用して順次実施し、平成 29 年度決算（学園全体及び各設置校）の報告や中・長期経営計画による経営改善状況の確認、SD 研修の一環として計算書類の読み方に係る説明等を行った。

2　設置校別　事業の概要

■大学・短期大学部関連

【教育・研究】

1. 人間健康福祉学部 4 学科体制が 2 年目へ

本年度 2 期生を迎えた人間健康福祉学部看護学科（松山市駅キャンパス）は、初年度運営の評価を踏まえ、教育内容や年間行事、学生支援のあり方などが見直されたほか、教員組織の充実や施設設備の整備が図られた。一方、北条キャンパスの既設 3 学科（社会福祉学科・人間社会学科・健康スポーツ学科）においては、外部環境の変化や学生ニーズに適応するため、各学科の教育課程の見直し等が進行している。なお、健康福祉マネジメント学科は、すでに平成 26 年 4 月 1 日付をもって学生募集を停止し、平成 28 年 4 月 1 日付をもって編入学生募集を停止していたが、平成 30 年度前学期末で在学生が卒業したことから、平成 30 年 9 月 20 日付をもって廃止となった。

2. 本学教員が人類働態学会「優秀発表賞」を受賞

平成 30 年 6 月 23 日（土）・24 日（日）に埼玉医科大学で開催された「第 53 回人類働態学会全国大会」において、健康スポーツ学科教員の大城卓也助教が「優秀発表賞」を受賞した。「教員のレジリエンス向上支援に向けたチェックリストの開発」というタイトルで行われた大城助教の発表は、中学校、高等学校の教員の働きすぎに注目したもので、受賞に際して大城助教は、「今受賞を励みに、現場に活かせるような研究に取り組んでいきたい」とコメントした。

3. 研究紀要を発刊

第 31 号となる聖カタリナ大学・同短期大学部「研究紀要」が、平成 31 年 2 月 28 日付にて発刊され、ホームページ上で公開されている。

4. 前年度FD活動実績を報告

平成 30 年 5 月 9 日(水)開催の大学教授会及び 4 月 2 日（月）開催の短大教授会において、各 FD 委員会調整役より、平成 29 年度 FD 活動に係る実績報告が行われた。前年度に実施された FD 活動として、新任教員研修や公開授業、授業改善調査(前期・後期)、学生による授業評価アンケート、SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）研修会、学内 FD 研修会などの報告が行われ、本年度も引き続き、各種研修会への参加や公開授業の参観、研究叢書への寄稿などに積極的に取り組むよう要請があった。

5. 学内 FD 研修会を実施

平成 30 年 6 月 27 日(水)、愛媛大学教育・学生支援機構　学生支援センター教授の野本ひさ氏を講師として、「現代学生の理解と関わり方」をテーマとした学内 FD 研修会を実施し、多くの教員が参加した。

6. 平成 30 年度授業公開

大学・短期大学部はそれぞれ以下の日程で、前期・後期の授業を本学学生の保護者及び教職員対象に公開した。この授業公開は、FD 活動の一環として授業の改善を目的に毎年定期的に実施されており、教育の質向上の一助としている。

・大　学：（前期）平成 30 年 6 月 4 日(月)～6 月 22 日(金)、（後期）10 月 30 日(火)～11 月 19 日(月)
・短　大：（前期）平成 30 年 6 月 18 日(月)～7 月 6 日(金)、（後期）11 月 28 日(水)～12 月 18 日(火)

7. 学内外における SD 活動

〇学外 SD 研修

平成 30 年 8 月 29 日(水)～31 日(金)の 3 日間、「SPOD フォーラム 2018」が香川大学において開催され、本学事務職員 2 名が講師を務めた。また、事務職員 1 名が SPOD の SD コーディネーター資格を取得した。

〇学内 SD 活動

平成 30 年 8 月 27 日(月)、大学経営コンサルタントの岩田雅明氏（新島学園短期大学学長）を講師に招

き、「地方小規模大学の生き残り」をテーマとする夏季 SD 研修を実施し、事務職員 50 名、教員 29 名が参加した。また、12 月 27 日(木)には、人事コンサルタントの岡崎浩二氏を講師に招き、冬季 SD 研修会として、「SDGs と最先端技術を活用した地域連携戦略　～地域から愛され続ける大学になる為に～」をテーマに実施し、職員 48 名、教員 23 名が参加した。

8. 人間社会学科「卒業研究報告会」を開催

平成 31 年 2 月 1 日(金)、人間社会学科において、「平成 30 年度卒業研究報告会」が開催され、学科の 4 年生全員が「専門演習Ⅱ」で取り組んだ卒業研究について口頭でのプレゼン発表(社会学系)とポスター発表(心理学系)を行った。各会場には聞き手・質問者として 2・3 年生の学生も参加し、発表者である 4 年生に質問等を行うなど、4 年生にとって、大学 4 年間の学習の集大成としての研究成果を発表する有意義な機会となった。

9. 保育学科生によるサービスラーニング

保育学科においては、主にレクリエーション・インストラクターの資格取得を希望する学生が中心となって、サービスラーニングに積極的に取り組んでいる。平成 30 年度は、日ごろの学びの実践や地域貢献活動の一環として、以下のようなイベントの企画・運営、参加協力を行った。

・かざはや踏んだら走る市
　平成 30 年 5 月 27 日(日)、於)北条「文化の森公園」芝生広場

・わくわく KIDS カーニバル
　平成 30 年 6 月 2 日(土)、於)松山市総合コミュニティセンター、主催)まつやま笑顔の子育て応援会議

・松山手をつなぐ育成会主催イベント
　平成 30 年 8 月 9 日(木)・13 日(月)

・ふれあいフェスティバル 2018
　平成 30 年 9 月 17 日(月)、於)エミフル MASAKI、主催)愛媛県・松山地方法務局・愛媛県人権擁護委員連合会・愛媛県人権啓発活動ネットワーク協議会

・松山市立たちばな小学校クリスマス会
　平成 30 年 12 月 9 日(日)、主催)土居田たちばな子ども会(写真)

・カタリナフェスタ:平成 30 年 12 月 21 日(金)、於)本学リズム室、対象)短期大学部附属幼稚園園児

・音楽・身体・造形表現を取り入れた紙芝居の実演
　平成 31 年 2 月 22 日(金)、於)松山認定こども園星岡

・わくわく KIDS'カーニバル
　平成 31 年 3 月 21 日(木・祝)、於)松山市総合コミュニティセンター、主催)まつやま笑顔の子育て応援会議

・子どものゆめプロジェクト 2019　～子どものいのちと体を守るお仕事体験～
　平成 31 年 3 月 30 日(土)、於)エミフル MASAKI、主催)NPO 法人ラ・ファミリエ

10. 保育学科による「初心者のためのピアノ教室」が開講

平成 31 年 3 月 11 日(月)、保育学科の入学前教育として「初心者のためのピアノ教室」を開講した。この講座は、[AO 入試]や[推薦入試]の合格者のうちピアノ初心者を対象に、入学前にピアノの基礎を学び、大学での学習がスムーズに行えることを目的に毎年開催され、苦手意識の克服に役立つと、参加者から好評を得ている。

11. 資格試験等の合格状況

平成 30 年度の主な資格試験等の合格状況は以下の通りである。

○平成 30 年度健康運動指導士認定試験(公益財団法人健康・体力づくり事業財団)
　認定試験が平成 30 年 11 月 23 日(金・祝)に実施され、健康スポーツ学科の学生 3 名が受験し、2 名が合格した。

○平成 30 年度介護福祉士国家試験
筆記試験が平成 31 年 1 月 27 日(日)に、実技試験が 3 月 3 日(日)に実施され、社会福祉学科 4 年生 13 名が受験し、11 名が合格した。
○平成 30 年度社会福祉士国家試験
平成 31 年 2 月 3 日(日)に実施され、社会福祉学科 4 年生 30 名が受験し、18 名が合格した。
○平成 30 年度精神保健福祉士国家試験
平成 31 年 2 月 2 日(土)・3 日(日)に実施され、社会福祉学科 4 年生 7 名が受験し、5 名が合格した。
○平成 30 年度産業カウンセラー試験(一般社団法人日本産業カウンセラー協会主催)
学科試験が平成 31 年1月 20 日(日)に、実技試験が1月 26 日(土)・27 日(日)に実施され、人間社会学科 3 年生及び 4 年生 10 名が受験し、3 名が合格した。

12. 平成 30 年度卒業生の就職状況

平成 30 年度卒業生の就職状況(就職率)は、学内における就職支援の充実や「売り手市場」が続いていることもあり、大学は 97.1%という高水準を記録した。学科別では、社会福祉学科 98.0%(社会福祉専攻 97.3%、介護福祉専攻 100.0%)、人間社会学科 91.4%、健康スポーツ学科は 100.0%となった。また、短期大学部(保育学科)の就職率は6年連続100.0%となり、内定者のうち保育専門職に就く学生の割合は 92.3%と高い比率を維持した。

【学生生活】

13. 学生対象アンケートの実施結果報告

○平成 29 年度卒業生対象アンケート
平成 30 年 8 月 1 日(水)開催の大学教授会及び同日開催の短大教授会において、学生生活委員会より、平成 29 年度卒業生を対象とした学生生活満足度調査(平成 30 年 3 月 15 日(木)卒業式当日実施)の結果報告が行われ、分析結果を今後の教育活動や学生支援などに活かしていくことが確認された。
○平成 29 年度看護学科入学生対象アンケート
上記に加え、平成 29 年度看護学科入学生を対象とした学生生活満足度調査(平成 30 年 1 月 18 日(木)実施)の結果報告が行われ、学生のキャンパスライフを充実していく上での課題の共有化が図られた。
○平成 30 年度入学生対象アンケート
平成 30 年 11 月 14 日(水)開催の大学教授会及び 11 月 7 日(水)開催の短大教授会において、入試・募集委員会より、平成 30 年度入学生を対象とした進路選択に係るアンケートの結果報告が行われた。
○平成 30 年度在学生対象アンケート
平成 31 年 3 月 6 日(水)開催の大学教授会及び同日開催の短大教授会において、学生生活委員会より、大学 2 年生及び短大 1 年生を対象とした学生生活満足度調査(平成 30 年 9 月 21 日(金) 後期履修ガイダンス当日実施)の結果報告が行われ、分析結果を教育活動や学生支援の改善に役立てていくことが確認された。

14. 前年度学生相談室活動状況を報告

平成 30 年 6 月 13 日(水)開催の大学教授会及び 6 月 6 日(水)開催の短大教授会において、学生相談室より前年度の学生相談室の活動状況が報告された。授業期間中は原則として、北条キャンパスでは火・木・金曜日の週 3 日、松山市駅キャンパスでは隔週水曜日にそれぞれ開室され、各キャンパスのスクールソーシャルワーカーが、教職員、特にアドバイザー教員やクラス担任との連携体制を基盤として相談室業務に取り組んだことや、相談室の認知度を上げるための啓発及び広報活動など、相談業務以外の活動について報告された。なお、本年度からは松山市駅キャンパス学生相談室の開室が週 1 回となり、より充実した相談活動が提供されている。

15. 学内就職相談会・説明会を開催

○学内福祉就職相談会
福祉や保育の専門職としての就職を志望する学生に対し福祉事業所等の採用担当者と直接話す機会を設け、その後の就職活動に役立ててもらうことを目的として、平成 30 年 10 月 6 日(土)、大学 3・4 年生及び

短大2年生を対象とした「学内福祉就職相談会」を開催した。当日は、大学生31名、短大生5名が参加し、愛媛県内外から参加した36の事業所のブースを積極的に回り、担当者の説明に熱心に耳を傾けた。

〇学内合同企業説明会

平成31年3月7日(木)、愛媛県内の一般企業を中心に32の企業・事業所の人事担当者を招いて、大学2・3年生対象の「学内合同企業説明会」を開催した。当日は大学生65名が参加し、多様な業種に関する貴重な情報が得られたと好評であった。

16. 学長と学生との懇談会を実施

平成31年2月14日(木)、「平成30年度学長と学生の懇談会(第18回)」が開催され、大学関係者として学長、副学長、人間健康福祉学部長、学生部長(大学・短大)、保育学科長が出席し、学生と軽食をとりながらリラックスした雰囲気の中で率直な意見交換を行った。同懇談会は、学生の声を直接聞くことによって、今後の教育改革や学生支援、さらには大学運営に役立てることを目的として毎年開催されており、学生から寄せられた意見や要望については、学内で検討し、学習環境(施設設備)や授業内容などの様々な改善に反映していくこととしている。

17. ユニバーサルパスポートを導入

webを利用した学生支援システム、「ユニバーサルパスポート」の導入が決定され、平成31年4月より運用を開始する計画にある。これにより学生は、専用ポータル画面から、学生生活に関する情報の入手や履修手続き、個人情報の確認などができるようになり、利便性の向上が期待されている。

18. 学内宗教行事を開催し、学生を顕彰

〇母をたたえる日の集い

平成30年5月16日(水)に北条キャンパスにおいて、5月23日(水)には松山市駅キャンパスにおいて、聖母マリアをたたえる宗教行事である「母をたたえる日の集い」が催された。当日は、聖母行列や学長講話、学生による献花、共同祈願等の後、後援会奨励金の授与式が行われ、学業・人物ともに優れているとして、北条キャンパスにおいては人間健康福祉学部6名、保育学科2名の学生に対し、また、松山市駅キャンパスにおいては看護学科の学生1名に対し、後援会長及び坂原副学長からそれぞれ奨励金が授与された。なお、松山市駅キャンパスにおいては、授与式の後、学長による「建学の精神」についての講話が実施され看護学科1・2年生にとって、本学への理解を深める機会となった。

〇学内クリスマス

平成30年12月20日(木)、聖カタリナホールにおいて「学内クリスマス」が催された。学長の司式によるクリスマスミサの後、短期大学部附属幼稚園の園児による聖誕劇の発表と学長賞(本年度、スポーツ・ボランティア・文化活動で活躍した個人及び団体)の授与が行われた。その後、会場を体育館に移して、学友会が主催するクリスマス会が開催され、各サークルの発表や豪華賞品が当たる恒例のお楽しみ抽選会があり、大盛況の内に終了した。

19. 学生ボランティアセンターの活躍

〇ボランティア講演会

平成30年7月9日(月)から始まるボランティアウィークに先立ち、5月12日(土)、本学職員の佐藤友紀氏(宮城県出身・本学卒業生)による「ボランティア講演会」が行われた。「東日本大震災から7年2ヵ月　～忘れないで東北を～」という演題による佐藤氏の話は、被災した東北の人々に思いを馳せ、自分にできることは何か、について考えさせられる貴重な時間となった。また、当日は、松山市内4大学合同のボランティアグループ4-Ringsの紹介や学生消防団の募集の話などもあり、地域に根差した活動の大切さを感じる機会となった。

〇ボランティアウィーク

平成30年7月9日(月)～14日(土)の6日間、「ボランティアから始まる物語(ストーリー)　～共に感じ、共に歩み、共に創る～」をテーマに、学生ボランティアセンター主催の「第16回ボランティアウィーク」が開催された。最終日の一般公開日には、ボランティアフェスタとして、恒例のフリーマーケットやバザーのほか、かがく

あそび工房やピアノサロンコンサート、クイズ&スタンプラリーなどの新企画で大いに盛り上がった。また、ボランティア協議会からも参加協力があり、プロの支援者（要約筆記・ホワイトボード作成・車椅子介助など）ならではの来場者との関わりを通してイベントを活気づけた。なお、ボランティアウィーク中の収益金や募金の 10 万円は、震災復興事業「がんばれ!!みやぎっ子」と、まごころ銀行を通じて西日本豪雨災害支援として全額寄付された。

○厚生労働大臣賞受賞

平成 10 年に設立され、本年で 20 周年を迎えた学生ボランティセンターは、日ごろの地道な活動や地域に密着した取り組みが評価され、厚生労働大臣賞を受賞した。11 月に開催された全国社会福祉大会での表彰式には出席できなかったため、平成 30 年 12 月 11 日（火）に行われた松山市での伝達式に学生代表 2 名が参加して顕彰を受けた。

20. 平成 30 年度大学祭を開催

平成 30 年 10 月 26 日(金)～28 日(日)の 3 日間、「彩　～忘れられない景色～」をテーマに大学祭が開催された。初日は、聖カタリナホールで学内ミサが行われ、2 日目・3 日目には、ステージショー、スペシャルライブ、保育学科レクリエーションのほか、恒例のパイプオルガン演奏会が開催された。また、学内外から留学生グループを含む多数の模擬店の出店もあり、国際色豊かに様々な物品や食品等が販売され、地域住民や卒業生など延べ約 2,300 人の来場者があった。なお、「西日本豪雨災害チャリティーコンサート」として開催されたパイプオルガン演奏会の会場では、総額 202,320 円の募金が集まり、後日、日本赤十字社愛媛県支部とカトリック・カリタスジャパンに全額寄付された。

21. 豪雨被災地でのボランティア活動に参加

平成 30 年 8 月 3 日（金）、本学の学生が西日本豪雨で被災した宇和島市において、家財運び、清掃、土砂の運搬等のボランティア活動に参加した。当日、学生たちは、松山市社会福祉協議会（災害時におけるボランティア活動に関する協定を締結中。）の下で、バスで松山市から宇和島市へ向かい、約 5 時間のボランティア活動を行ったが、報道だけでは知ることのできない被災地の現状を目の当たりにして、ボランティアが不足していることや、継続した活動の必要性を実感することとなった。また、夏季休暇中の災害ボランティアに参加した学生及び教職員は 6 日間延べ 52 人で、大洲市と宇和島市に派遣され、支援活動に当たった。

22. BBS 同好会の活躍

本学 BBS 同好会の継続的な支援活動が評価され、平成 30 年 11 月 6 日(火)、愛媛県生涯学習センターで開催された「平成 30 年度愛媛県更生保護事業関係者顕彰式典」にて、同好会に所属する社会福祉学科 4 年　荒木誉史さん、古本義弘さん、松井豊さんの 3 名に対し、松山市保護観察所長より感謝状が授与された。BBS とは、いわば兄や姉のような存在として後輩世代の少年少女たちをサポートするボランティア活動、「Big Brothers and Sisters Movement」の略称で、本学では同好会として活動している。

23. スポーツ部の活躍

○サッカー部

本学サッカー部所属の丹澤　龍選手（人間社会学科 2 年）が、平成 30 年 7 月 17 日（火）～22 日（日）に神奈川県で開催された代表選考会に参加し、北マリアナ諸島代表チームの代表選手に選出され、同チームの選手として、9 月 3 日（月）～11 日（火）にモンゴルで開催された「東アジア E-1 サッカー選手権（EAFF E-1 フットボールチャンピオンシップ）」に出場した。チームは、四国大学サッカーリーグ 2 部では、前年度に続き本年度も優勝を果たしたが、11 月 18 日(日)に開催された「1 部 2 部入替戦」で愛媛大学に敗れ、次年度も 2 部残留となった。

○新体操(個人)

平成 30 年 5 月 22 日（火）～24 日（木）、福岡で開催された「第 68 回西日本学生体操選手権大会（新体操の部）」において健康スポーツ学科 1 年の芳之内乃亜選手が総合 8 位、種目別ボールでは 5 位に入賞した。今大会の順位により、8 月 16 日（木）～19 日（日）に群馬県高崎アリーナで開催された「第 70 回全日本学生

新体操選手権大会」への出場を果たした。芳之内選手は、前年開催された「えひめ国体」にも出場し、優秀な成績を収めている。

○ボウリング

文部科学大臣「第 47 回全国都道府県対抗選手権大会(ボウリング)」が平成 30 年 11 月 1 日(木)～11 月 4 日(日)、茨城県で開催され、健康スポーツ学科 1 年の泉宗心音選手が女子選手権者決定戦で優勝し、第 44 回大会以来 3 年ぶり 2 度目の優勝となった他、混合 2 人チーム戦にも出場し、3 位に入賞した。泉宗選手は、これらの戦績が評価され、松山市から「かがやき松山大賞」(写真)が、愛媛県から「愛顔(えがお)のえひめ文化・スポーツ賞」が授与された。

○軟式野球部

本学卒業生の竹本淳選手(投手)が愛媛マンダリンパイレーツとの契約更新を行った。竹本選手は在学中、軟式野球部に所属し、四国地区大学軟式野球連盟春季リーグ戦優勝や「第 40 回全日本大学軟式野球選手権大会」初出場に導くなどエースとして活躍し、本年度より愛媛マンダリンパイレーツの練習生として登録されていた。

○硬式野球部

平成 30 年 4 月に硬式野球部を創部、沖 泰司氏(元愛媛マンダリンパイレーツ監督・元日本ハム プロ野球選手)が監督に就任し、監督自らが全国各地の高校を訪問するなどして、スカウト活動を行っている。なお、平成 30 年 3 月 12 日(月)に松山市駅キャンパスで監督就任の記者会見を行った。

24. 文化部の活躍

○メディアデジタル同好会

平成 30 年 9 月 16 日(日)、KONAMI「実況パワフルプロ野球 チャンピオンシップ 2018」(PlayStation®4 版)を使用した e-Sports 大会「第 2 回えひめ e-Baseball 大会」が南海放送本町会館で開催され、メディアデジタル同好会会員 2 名とその兄弟の計 3 名で結成したチームが大人の部で優勝を果たした。

25. 留学生が日本語スピーチコンテストで入賞

平成 30 年 11 月 4 日(日)、愛媛県留学生等交流推進会議主催の「第 15 回留学生日本語スピーチコンテスト in 愛媛 2018」が南海放送本町会館で開催された。このコンテストは平成 16 年から開催されており、今回は県内の高校・短大・大学等に在籍する 7 カ国 15 名の留学生が出場した。本学からは、台湾からの留学生で人間社会学科 1 年の李 昕畇(ﾘ・ｼﾝﾕﾝ)さんと 4 年の蔡 亞璇(ｻｲ・ｱｾﾝ)さんが出場し、「短いズボンと私の夢」をテーマにスピーチした李さんが『南海放送賞』を受賞した。

26. 俳句で入選

平成 31 年 2 月 2 日(土)、砥部町文化会館で開催された「第 5 回えひめ親守詩大会」で本学保育学科 2 年の田坂綾香さん、中平弥悠さん、山田美憂さんが俳句形式部門で入選し、表彰された。

【地域連携】

27.「まつやまシニアカレッジ」が開講

松山市社会福祉協議会との共同企画プロジェクトとして本年度で 14 回目となる「まつやまシニアカレッジ」が平成 30 年 5 月 11 日(金)から開講し、松山市在住の 60 歳以上の 43 名が入学した。同講座は、高齢者向けのカリキュラムにより、知識獲得意欲を向上させる機会を持ってもらうと同時に、附属図書館や学生食堂、ヘルスプロモーションセンター“サルーテ”など大学施設の利用のほか、大学行事に参加するなど学生生活の一端を体験してもらおうとするもので、平成 31 年 1 月 11 日(金)までの開講中、「生きがい」や「老いがい」、「健康づくり」などをテーマに本学教員による全 10 回の講義が行われた。

28. 平成 30 年度愛媛銀行寄付講座・聖カタリナ大学「風早の塾」を開講

平成 30 年 5 月 18 日(金)～平成 31 年 1 月 18 日(金)の間、愛媛銀行寄付講座・聖カタリナ大学公開講座「平成 30 年度風早の塾」が開催された。本年度は、「新しい時代を生きる ～生まれてから老いるまで～」をメインテーマに掲げ、本学教員のほか外部より多彩な講師を招いて、全 14 回の講座を開講し、延べ 1,420 名の

参加を得た。

29. 短期大学部保育学科公開講座「リカレントセミナー」を開催

幼稚園や保育所などに勤務している社会人を対象に、平成 30 年 8 月 17 日(金)、「第 19 回リカレントセミナー」が開催された。当日は本学保育学科教員が講師となり、午前の部では、「ユニバーサルデザインの音楽遊び　～障がい児と健常児の垣根を越えて～」と「日本の保育・子育て支援はどこへ向かっていくのか」を、午後の部では、「新聞紙あそびのフルコース」と「色と形について」をそれぞれ開講した。延べ 152 名の受講者たちは、新たな知識や技術の習得を目指して熱心に取り組んだ。

30. 風早にぎわいまつりに協力出店

平成 30 年 11 月 11 日(日)、JR 伊予北条駅前で開催された「風早にぎわいまつり」(主催:風早活性化協議会、共催:松山市)に、前年度に引き続き協力出店した。このまつりは例年開催されている地域の恒例イベントで、当日は、保育学科の学生たちが子どもの遊びコーナーのブースを出店し多くの親子連れが来場した。また、ステージプログラムでは、短期大学部附属幼稚園の園児と本学ダンス部の学生がステージ発表を行い、イベントを大いに盛り上げた。

31. 西日本豪雨被災者支援活動を展開

○「すごいもの博 2018」でチャリティ

平成 30 年 11 月 24 日(土)、25 日(日)に松山市堀之内公園で開催された「すごいもの博 2018」(主催:愛媛県・松山市)に、平成 30 年 7 月西日本豪雨の被災者を支援するため本学のブースを出店した。当日は、大学はチャリティ射的大会(1 回 200 円)、短期大学部は子どもの遊びコーナー(無料)を実施し、計 2,500 名以上の来場者があった。チャリティ射的大会の収益金約 12 万円は、西日本豪雨の被災地復興支援のため、まごころ銀行[松山市社会福祉協議会]へ全額寄付された。

○「おもいやり消費ランド 2019」に参加協力

平成 31 年 2 月 23 日(土)、愛媛県消費生活センターが主催する「おもいやり消費ランド 2019」がエミフル MASAKI で行われ、社会福祉学科の学生 5 人が参加協力した。このイベントは、地域や人、環境のことを考えた消費行動を呼びかける目的で毎年行われており、特に本年度は 7 月に発生した西日本豪雨災害の「被災地の商品を購入して応援する」をテーマに、ゲストライブやミニミュージカル、トークセッションなどの催しが行われた。本学の学生は 2 回ステージに登場し、1 回目は学生の被災地でのボランティア活動紹介と思いやり消費クイズを、2 回目は大学の思いやり消費活動(TFT や愛媛みかんの啓発活動)紹介と思いやり消費クイズをそれぞれ実施した。会場には多数の来場者があり、被災地を応援する方法を考えてもらう好機となった。

32. 松山市文化・スポーツ振興財団との連携協定活動を展開

○風早体操を共同制作

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団との連携協定の一環として、子供から高齢者までが楽しめる「風早体操」を本学と同財団との共同によりオリジナル制作した。体操曲、「Viva Kazahaya ～風早体操ソング～」の作詞作曲は、愛媛県内でローカルタレントとして活躍中の藤田晴彦氏によるもので、親しみやすく踊りやすい曲調となっている。今後、松山市内の様々なイベントに参加するなどして普及に努めていくこととしている。なお、本学ホームページ上で体操練習用の動画が公開されている。

○スポーツレクリエーションフェスティバル in 風早

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団との連携協定の一環として、平成 30 年 11 月 3 日(土・祝)、「第 1 回スポーツレクリエーションフェスティバル in 風早」が北条スポーツセンターにおいて開催された。

イベント開始に先立ち、準備運動として保育学科長・大上紋子教授の指導のもと「風早体操」が行われた後、体育館において体組成測定やロコモスキャン、スポレク式体力測定、ファミリーフィットネスチャレンジ(ヨガ・自立整体等)が実施された。当日は、健康スポーツ学科教員による健康に関する助言なども行われ、来場者から好評を得た。

33. 伊予市と連携協定を締結し、活動を展開

○連携協定締結

平成 30 年 7 月 3 日（火）、伊予市役所において、「聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部と伊予市との連携に関する協定」の調印式が行われ、武智邦典伊予市長と本学学長が協定書を交わした。この連携協定は、伊予市と本学が有する知的・人的・物的資源を相互活用することで、魅力あるまちづくり及び地域産業の振興を目指すことを目的としている。

○だれでも弾けるピアノを設置

伊予市との連携協定の一環で、平成 31 年 4 月中旬までの期間限定イベントとして、伊予市のふたみシーサイド公園（道の駅ふたみ）に本学のピアノを設置した。このピアノはだれでも自由に弾くことができることから、「だれでもピアノ」と名付けられた。3 月 3 日（日）のオープニングイベントでは、保育学科の学生が演奏を行い、来場者を楽しませた。

○子育てフォーラムに協力参加

平成 31 年 2 月 17 日（日）、伊予市総合保健福祉センターで開催された「伊予市子ども・子育てフォーラム－児童虐待防止対策講演会－」（伊予市子育て支援課主催）のイベント運営に保育学科の学生が協力参加した。このイベントは伊予市との連携協定の一環で開催されたもので、フォーラムの最初に保育学科長の大上紋子教授指導による「親子ふれあい運動遊び（手遊び・ボール遊び）」があり、保育学科の学生も子どもたちと一緒に活動し、約 100 名の親子が楽しい時間を過ごした。

【国際交流】

34. 国際姉妹校(台湾)を表敬訪問

平成 30 年 6 月 14 日（木）～15 日（金）、学長及び入試課長の 2 名が、国際姉妹校である静修女子高級中学(台湾)を訪問し、同校からの留学生受け入れについて情報交換を行った。

35. アメリカ・シアトル海外研修を実施

海外の異文化を理解し国際的見識を深め、英語によるコミュニケーション力を向上させることを目的に、平成 30 年 8 月 19 日（日）～9 月 2 日（日）の約 2 週間、アメリカ・シアトルで海外研修を実施した。本学からは 3 名の学生が参加し、世界各国から集まった留学生とともに、シアトル・パシフィック大学の短期留学プログラムを受講した。

36. ベトナムより医科大学一行が来訪

平成 30 年 11 月 29 日（木）、ベトナムのヴィン医科大学の学長と学長夫人、ハイフォン医薬大学の理事長と学長等、総勢 7 名が北条キャンパスを訪れた。当日の懇談会では、各大学の紹介や今後の連携・交流に関する情報交換等を行い、今後の発展的な関係作りへの期待が高まった。

【高大連携】

37. 松山まつりで高大連携ブース出店

平成 30 年 8 月 10 日(金)～12 日(日)の 3 日間、松山まつり「まつこいパーク」において、本学（大学・短期大学部）と聖カタリナ学園高等学校の教職員が協力してチャリティゲーム大会の学園ブースを出店し、親子連れをはじめ多くの来場者があった。なお、チャリティゲームで得た収益金や募金は、松山市社会福祉協議会まごころ銀行を通して、平成 30 年 7 月豪雨被災者の復興支援のために全額寄付された。

38. 松山まつり・野球拳おどりで「聖カタリナ学園連」が準優勝

平成 30 年 8 月 11 日（土）の松山まつり「野球拳おどり　～団体連の部～」において、出場した 33 チームのうち、本学（大学・短期大学部）及び聖カタリナ学園高等学校の学生・生徒と教職員により結成された『聖カタリナ学園連』が準優勝を果たした。

【学生募集・広報活動】

39. 大学説明会を開催

平成 30 年 5 月 30 日(水)、松山市駅キャンパスを会場に「平成 30 年度大学説明会」(高校教員対象)を開催し、県内外から37 校 44 名の参加を得た。当日は、担当教職員が、各学科の特色や就職状況、入試要領、奨学金等について説明を行ったほか、希望者を対象にキャンパス内の施設設備見学会を実施した。なお、学外での説明会は、5 月 21 日(月)～28 日(月)にかけて、宇和島、八幡浜、高松、高知、新居浜の 5 会場において順次開催され、本学会場と合わせ全体で 64 校 71 名の参加を得た。

40. オープンキャンパスを開催

平成 30 年度オープンキャンパスが、北条キャンパスにおいては 6 月 24 日(日)・7 月 29 日(日)(※台風のため中止となったため、8 月 5 日(日)に「高校生・保護者対象大学説明会」を開催)・8 月 19 日(日)・9 月 22 日(土)の計 4 回、松山市駅キャンパスにおいては、6 月 24 日(日)・8 月 18 日(土)・8 月 19(日)の計 3 回開催された。参加した高校生たちは、全体説明の後、学科別説明会に参加したほか、模擬授業体験や学食体験(北条キャンパスのみ)などを通して、本学への理解を深めた。また、保護者対象の相談コーナーでは、保護者にとって関心の高い入試要項や奨学制度、就職状況などについての個別相談が行われた。他にも、平成 31 年 3 月 17 日(日)には恒例の「春のオープンキャンパス」が両キャンパスにおいて開催され、高校生や保護者を対象に学科紹介や学科別体験コーナー、総合相談などが行われた(写真)。

41. 西日本豪雨被災者への経済支援特別措置を決定

平成30年7月の西日本豪雨により、愛媛県でも南予を中心に甚大な被害が発生したことを受け、豪雨被災者を対象に、平成31年度入学試験における入学検定料及び入学金を免除する特別措置を決定し、公表した。

42. 公式LINE@アカウントを開設

本学入試課は、公式LINE@を開設し、入試情報やオープンキャンパスなどのイベント案内のほか、各学科の授業を紹介する動画や写真を掲載するなどして、本学の情報を継続的に発信している。

【附置機関】

43. 研究所フォーラムを開催

○人間文化研究所

所員を含む本学教員の研究発表の機会として、平成 30 年 9 月 26 日(水)～平成 31 年 1 月 30 日(水)の間、全 5 回(発表者 15 名)のフォーラムが開催された。

○キリスト教研究所

平成 30 年 10 月 24 日(水)～平成 31 年 2 月 20 日(水)の間、「よく生きること」をテーマとして全 4 回(発表者 10 名)のフォーラムが開催された。

44. 研究紀要を発刊

人間文化研究所研究紀要(第 23 号)及びキリスト教研究所紀要(第 21 号)がそれぞれ発刊され、カトリック系他大学等、約 200 の関係諸機関へ献呈された。

【施設・設備整備】

45. アルベルト・カルペンティール宗教画ギャラリー絵画展示室が完成

アルベルト・カルペンティール宗教画ギャラリー(北条キャンパス)の既設の展示室がスペース不足となっていたことから、その隣室に絵画展示室として拡設工事を行い、平成 30 年 12 月 26 日(水)に完成した。現在展示する油絵などを選定中である。これにより、カルペンティール師の版画や油絵・水彩画、ステンドグラス、作陶などの幅広い分野における作品が数多く公開できることとなった。なお、カルペンティール師は現在、生まれ故郷であるベルギーのアントワープ市に在住しており、平成 30 年 9 月に 100 歳の誕生日を迎えられた。

■高等学校関連

《聖カタリナ学園高等学校》

【教育】

1．共学校 1 期生が卒業

平成 31 年 3 月 1 日(金)、白ゆり館において、「平成 30 年度卒業証書授与式」が執り行われた。共学校となった「聖カタリナ学園高等学校」の 1 期生 490 名に対し、渥見秀夫校長は、「平成の次がどんな時代になろうとも、誠実・高潔・奉仕の校訓を支えるカトリック精神の普遍性が揺らぐことはありません。時代を超えたこの精神・この校訓を終生の鏡として、卒業後、新時代を生きることになる自分の姿を照らし続けてください。」とのメッセージを送り、在校生や来賓らとともに門出を祝した。

2．入試報告会＆ICT授業見学会を開催

平成 30 年 5 月 24 日(木)に開催された「入試報告会＆ICT 授業見学会」には、県内中学校の校長や学年主任等、35 校 43 名の参加があった。当日は、前年度の入試状況報告が行われた後、ICT 教育について、電子黒板やタブレット端末を駆使した授業見学会が実施され、その充実ぶりに高い関心が寄せられた。

3．聖カタリナ･セミナーハウスを会場に学習合宿を実施

○普通科新入生対象「春期学習合宿」

平成 30 年 4 月 13 日(金)･14 日(土)の 2 日間、普通科特別進学コース 1 年生 42 名を対象に学習合宿が実施された。この合宿は、予習→授業→復習の学習習慣サイクルを身に付けるためのトレーニングの場として毎年行われており、生徒たちは国語・数学・英語の 3 科目を中心に学習習慣サイクルの実践に取り組んだほか、校長講話や進路ガイダンス、ICT授業のガイダンス、ノートコンテスト、夕べの集いなどのメニューを体験し、高校生活の重要なスタート期に弾みをつけた。

○普通科 1･2 年生対象「夏期学習合宿」

平成 30 年 7 月 23 日(月)～26 日(木)の日程で、大学進学を目指す普通科(スポーツ進学コースを除く)1･2 年生 76 名を対象に、夏期学習合宿が実施された。3 泊 4 日の合宿中、生徒たちは1コマ 80 分の授業を 19 コマ、合計で 25 時間を越える授業を受講し、学力向上とともに、やり遂げることの大切さを学んだ。

4．+10プロジェクト発表会を開催

平成 31 年 2 月 20 日(水)、総合学科の必修科目である「産業社会と人間」の総仕上げとして、学科 1 年生による「+10(ﾌﾟﾗｽﾃﾝ)プロジェクト」の発表会が行われ、2 年生や来賓が見守る中、2 年次より選択する系列それぞれを代表して 7 名の生徒が、将来つきたい職業について発表した。

5．平成 30 年度看護師国家試験において受験者全員合格

平成 31 年 2 月 17 日(日)に実施された平成 30 年度(第 108 回)看護師国家試験において、受験した専攻科生 47 名全員が合格を果たした。本校は、1 名が不合格となった平成 25 年度を除き、平成 22 年度以降連続して合格率 100%を維持しており、看護師養成において全国トップレベルの実績をあげている。なお、平成 30 年度の合格率(全国)は 89.3%(うち、新卒者 94.7%)だった。

6．教員研修を実施

○授業見学

平成 30 年 5 月 24 日(木)～6 月 8 日(金)を教員研修期間として、教員相互で授業見学を行った後、評価表を提出するなどして、教務力の向上及び自己啓発に集中的に取り組んだ。この授業見学による教員研修は毎年度実施されており、教員相互の切磋琢磨を通して、授業力やクラス運営力などの向上に一定の成果を上げている。

○特別支援教育研修会

平成 30 年 11 月 30 日(金)、愛媛大学大学院教育学研究科の白松　賢教授を講師に迎え、「21 世紀型 HR

経営の充実　～生徒指導の視点を含めて～」と題した研修会を開催した。白松教授による90分間の講義は、生徒指導の課題等について広い視野と様々な切り口から迫っていく内容で、ミニワークショップなども行われ、参加した教員たちは、自らの課題と向き合いながら、今後のホームルーム運営や授業構想に活かしていくべく、大きな手応えを感じていた。

【学校生活】

7．3年生対象進路ガイダンスを実施

平成 30 年 4 月 20 日(金)に実施された 3 年生対象の進路ガイダンスにおいて、進学課・就職課・生徒課の担当教員より、進路決定までの流れや入試の種類、就職などに関する説明が行われた。最終学年を迎え、進路選択が今後本格化してくることから、参加した生徒たちは、それぞれの将来に思いを馳せながら、真剣に耳を傾けていた。

8．普通科特別進学コース 1 年生対象進路ガイダンスを実施

平成 30 年 6 月 25 日(月)、普通科特別進学コース 1 年生対象の進路ガイダンスが実施された。参加した生徒たちは、大学入試の仕組みや、「大学入試センター試験」に代わって現高校 1 年生から開始される「大学入学共通テスト」などについて学んだ。ガイダンスの最後には、チームT30（難関国公立大学志望者チーム）についての説明も行われた。

9．カタリナ進学フォーラム 2018 を開催

平成 30 年 12 月 4 日(火)、普通科・総合学科の 2 年生を対象とした進路イベント、「カタリナ進学フォーラム 2018」が開催され、県内外の大学、短期大学、専門学校等、約 50 校の参加協力があった。受験学年への進学を控えた 2 年生にとって、受験生としての意識を高め、進路について真剣に考える機会となった。また、同日、就職を希望する生徒を対象に、就職を取り巻く環境や採用試験で求められるスキルなどについて学ぶ講座が実施された。

10．総合学科 1 年生の大学訪問

平成 30 年 6 月 12 日(火)、総合学科1年生が「産業社会と人間」の授業の一環として、同じ学園である聖カタリナ大学・短期大学部を訪問し、保育や健康福祉、心理コミュニケーションの系列研究を行った。当日は、各学科説明のほか、在学生インタビュー、卒業後の進路についての説明などが行われ、参加した生徒たちにとって学問や職業についての関心を高める機会となった。

11．大学体験ツアー2018 を開催

平成 30 年 8 月 22 日（水）、PTAと教育後援会の協力により「大学体験ツアー2018」が開催され、本校生徒及び教員の 47 名が広島大学(広島県東広島市)を訪問した。当日は、全国から集まった大勢の高校生と大学の模擬授業を受講したり、学部説明に耳を傾けたりと、大学のアカデミックな雰囲気を肌で感じる貴重な一日となった。

12．長崎平和体験学習

平成 30 年 8 月 8 日(水)～11 日(土)の 4 日間、長崎平和体験学習が実施された。参加した生徒 5 名と教員 4 名は、平和祈念式典への参加や長崎原爆資料館の訪問などを通して、恒久平和への思いを新たにした。また、一行は、浦上天主堂や出津教会堂、永井隆記念館やド・ロ神父記念館、二十六聖人記念館など、キリスト教ゆかりの地を訪ね、日本におけるキリスト教布教の歴史を学んだ。

13．学園祭を開催

平成 30 年 11 月 3 日(土・祝)、「第 51 回カタリナ学園祭」が、“絢爛華麗　～舞い散れ カタリナ Smile～”をテーマに開催された。共学校として完成年度を迎えた本年度は、新しい取り組みとして各クラスの模擬店が数多く出店し、例年以上にクラスや学年で絆を深める学園祭となった。

14．携帯電話の校内持ち込みを許可制により解禁

携帯電話の校内への持ち込みは、学校活動上、必要がないとして禁止されていたが、携帯電話の普及に

伴う社会全体の生活スタイルの変化や公衆電話設置数の減少、登下校時の連絡、災害時などの安否確認等に必要であるという実情を考慮し、本年度 2 学期から許可制により認めることとした。なお、今回の措置に伴い、日々の生徒指導や保護者を含めた広報活動等により、校内持ち込みに係るルール厳守の徹底に努めている。

15.「校長と図書館で話そう」を実施

本校を「より居心地のいい学校・誇りの持てる学校」にするために本音で話をしよう、という校長の呼びかけで、「校長と図書館で話そう」と題した在学生とのフリートーキングの会が年間 2 回開催された。参加した生徒からは、各学科やコース、学校行事、委員会活動などに関する率直な意見が出され、よりよい学校づくりに向けた貴重な話し合いの場となっている。

【地域連携・地域貢献】

16. 街頭募金活動を実施

7 月西日本豪雨の被災者を救援するため、平成 30 年 7 月 18 日(水) 、松山市内の百貨店前で街頭募金活動を行った。集まった募金 21 万円は、愛媛県南予地域の被災地に送られた。

17. 宗教行事におけるボランティア活動を展開

○平成 30 年 5 月 31 日(木)、松山市民会館大ホールにおいて「聖母を讃える集い」が催され、祭儀・共同祈願の後、田端孝之神父による「君の DNA に話します」と題した講演が行われた。午後からは、全校を上げて、松山市内の高齢者福祉施設や病院を訪問したほか、近隣公園の清掃活動や児童養護施設への学用品発送作業などのボランティア活動に取り組んだ。これらの活動は、「奉仕　聖母のように」と題して、地元紙でも紹介された。

○平成 30 年 12 月 17 日(月)、松山市民会館においてクリスマス祝会が行われ、ミサの後、カトリック宇部教会の主任司祭である片柳弘史神父による講演会が行われた。また、12 月 6 日(木)・7 日(金)の授業終了後、恒例となったクリスマス街頭募金活動が、松山市駅前周辺において生徒延べ 170 名が参加して行われた。

18. 乗車マナーアップキャンペーンに参加

平成 30 年 11 月 20 日(火)、松山市駅前において、松山工業高等学校の生徒とともに本校生徒会本部役員 7 名が、乗車マナーアップキャンペーンに参加して、乗車マナー啓発のチラシを配布したほか、マナー向上の街頭呼びかけを行った。

【在校生の活躍】

19. 運動部

○硬式野球部

・平成 30 年 4 月 7 日(土)の愛媛県代表順位決定戦において勝利し、愛媛県 1 位校となった硬式野球部は 5 月 3 日(木・祝)より高知県で開催された「第 71 回春季四国地区高校野球大会」に出場し、初の決勝戦まで進んだものの、香川県の 1 位校に敗れ、惜しくも準優勝となった。

・平成 30 年 7 月 21 日(土)、「第 100 回全国高等学校野球選手権・愛媛県大会」の 3 回戦に臨んだ硬式野球部は、今治西高等学校と対戦し、7 対 9 で敗退した。

・秋季四国地区高校野球県大会の準決勝戦においてコールド勝ちを収めた硬式野球部は、平成 30 年 10 月 27 日(土)に開催された「第71 回秋季四国地区高校野球大会」の初戦で明徳義塾高等学校(高知県 3 位校)と対戦し、0 対 2 で敗退した。

○弓道部

・平成 30 年 4 月 22 日(日)に開催された「愛媛県高等学校中予地区弓道選手権大会」に出場した男子弓道部は、男子団体戦において第 3 位に入賞し、女子弓道部とともに、愛媛県総体・団体戦への出場を決めた。

また、男子個人戦においては、岩本大河選手（総合学科 3 年）が準優勝したほか、田中慎也選手（総合学科 3 年）と川上颯太選手（普通科 3 年）が個人戦での県総体出場を決めた。

・平成 31 年 3 月 10 日（日）、「第 23 回ダイキ杯　ジュニア弓道選抜大会」の県内大会が行われ、団体戦で初優勝した。

○バスケットボール部

「Softbank ウインターカップ 2018・第 71 回全国高等学校バスケットボール選手権大会」において 3 回戦まで勝ち進んだが、石川県立津幡高等学校に 58 対 68 で敗れた。前年度は県予選決勝で敗退し全国大会への切符を逃したが、2 年ぶりの大舞台で「カタリナらしい」プレイを見せ、古豪復活への期待を抱かせた。

○水球部

平成 30 年 7 月 15 日（日）、「第 69 回四国高等学校選手権水泳競技大会」の水球競技において優勝し、8 月 17 日（金）から三重県で行われたインターハイに出場したが、2 回戦で敗退した。

○サッカー（愛媛 FC）

愛媛FCの下部組織U-18 所属の岩井柊弥選手（普通科 3 年）が、来季、2019 シーズンからトップチームに昇格することが決定した。下部組織からの昇格は 2012 年以来のことで、聖カタリナ学園と愛媛 FC が提携して 3 年目を迎え、初の卒業生が出るタイミングでの昇格となった。

○ソフトテニス部

・平成 31 年 1 月 12 日（土）～13 日（日）に徳島県で行われた全日本高校選抜四国予選において優勝し、3 月に愛知県で行われた全国大会に出場した。

・平成 31 年 1 月 19 日（土）に香川県で行われた四国高校選抜大会（個人戦）において、本校生徒（大奈路美優選手・豊田彩織選手（普通科 2 年）が準優勝、網江すみれ選手・小倉千裕選手（普通科 1 年）が 3 位）の好成績を残した。

○愛媛県高等学校総合体育大会（平成 30 年 6 月 1 日～4 日）

13 競技に 152 名が参加し、バスケットボール部（17 年連続）と器械体操部が優勝したほか、新体操部、バレーボール部、陸上競技部が準優勝、ソフトテニス部とソフトボール部が 3 位、女子弓道部が団体戦 4 位入賞の好成績を上げた。

○四国高校選手権大会（平成 30 年 6 月 16 日～18 日）

バスケットボール部が団体優勝（17 年連続 20 回目）を果たしたほか、新体操部が準優勝、女子弓道部が団体 3 位に入賞した。

○全国高等学校総合体育大会　－東海総体－　（平成 30 年 7 月 26 日～8 月 20 日）

4 競技（バスケットボール・陸上競技・器械体操・ソフトテニス）に 36 名が出場した。

○第 73 回国民体育大会－福井しあわせ元気国体 2018－　（平成 30 年 9 月 29 日～10 月 9 日）

10 競技に 33 名が出場し、弓道少年少女に出場した渡部冬萌選手（総合学科 3 年）が優勝、馬術競技に出場した道下せな選手（普通科 1 年）が 3 位に入賞した。

20. 文化部

○文芸部

愛媛県内 14 校・20 チームが参加した「第 21 回俳句甲子園」の地方大会（松山第 2 会場）において優勝し（写真）、平成 30 年 8 月 18 日・19 日の日程で開催された全国大会に初出場を果たした。また、同大会において黒部瑞希さん（普通科 3 年）が最優秀句賞を受賞した。地方大会を勝ち抜いた 32 チームが競った全国大会では、惜しくも予選リーグで敗退したが、本校文芸部の健闘ぶりは NHK の特別番組において取り上げられた。

○パソコン部

平成 30 年 6 月 3 日（日）に開催された「第 65 回全国高等学校ワープロ競技大会・愛媛県予選」のワープロの部において、団体 3 位に入賞した。また、11 月 4 日（日）の「平成 30 年度愛媛県高等学校商業教育実務競技大会」のワープロの部において団体 3 位に入賞したほか、長谷部永宝さん（総合学科 3 年）が技能賞（個人）を受賞した。

○エンジェル部

「平成30年度愛媛県県民総合文化祭」における総合フェスティバル(10月27日開催)及び愛媛県高等学校総合文化祭総合開会式(11月16日開催)において手話通訳を行った。「大舞台」だったため、緊張した部員もいたが、日ごろの練習の成果を十分に発揮し、後日、感謝状が贈呈された。

【高大連携】

21. 高大連携活動を展開 (※詳細は[大学・短期大学部]の部に掲載。)

・平成30年8月11日(土)、松山まつり「野球拳おどり ～団体連の部～」に「聖カタリナ学園連」として出場し、準優勝した。

・平成30年8月10日(金)～12日(日)の3日間、松山まつり「まつこいパーク」において、聖カタリナ大学・短期大学部と協力し、チャリティゲーム大会の学園ブースを出店した。

【生徒募集・広報活動】

22. ICT授業・調理パティシエ体験会を開催

平成30年6月2日(土)、今年度初めての企画として、ICT授業・調理パティシエ体験会を開催し、ICT授業体験会には13名、調理パティシエ体験会には想定を上回る19名の参加があった。以降、10月13日(土)、11月17日(土)にも開催され、本校への理解を深めてもらった。

23. 学校・入試説明会を開催

○学校説明会

平成30年6月16日(土)、白ゆり館において中学生・保護者を対象とする学校説明会が開催され、前年度を上回る457名の参加を得た。当日は、全体会、各科・コースの紹介、部活動のデモンストレーションなどが行われた。

○保護者対象学校説明会

平成30年10月20日(土)に開催された保護者対象学校説明会には72名の参加があり、担当教員の説明に熱心に耳を傾けた。

○学校入試説明会

平成30年11月10日(土)、生徒・保護者対象の学校入試説明会を開催し、175名の参加があった。当日は学校紹介の後、奨学制度や入試問題の傾向と対策について担当教員より説明が行われた。

24. 学校体験・見学会を開催

来年受験を迎える中学生を対象に「学校体験・見学会」が、普通科・総合学科・看護科の3学科については平成30年8月1日(水)、8月2日(木)、8月25日(土)に、運動部については8月22日(水)にそれぞれ開催され、延べ約700名の参加を得た。各学科の体験・見学会当日は、白ゆり館にて全体会が催され、校長の挨拶や奨学制度の説明等が行われた後、生徒たちは学科別に設けられた授業体験コーナーにそれぞれの興味や希望に応じて参加した。

25. 地域別学校説明会を開催

県内中学校の教員を対象とした「地域別学校説明会」が平成30年9月25日(火)から3日間、宇和島、西条、松山の各会場において開催され、計82校・115名の参加を得た。

【国際交流・海外留学】

26. シアトルの姉妹校が来校

平成16年より交流を続けているアメリカ・シアトルのホーリー・ネームズ・アカデミー高校(Holy Names Academy)の生徒11名と教員2名が短期留学で本校を訪れた。一行は、平成30年6月8日(金)～15日(金)の8日間の滞在中、本校生徒の家庭にホームステイをして日本文化を体験したほか、交流授業や校外研修を通して本校生徒との親睦を深めた。

27. ニュージーランドの姉妹校へ短期留学

ニュージーランドの姉妹校であるセント・メアリーズ校への短期留学が、平成31年3月10日(日)から17日

間の日程で実施され、14 名の生徒が参加した。滞在期間中、生徒たちはホストファミリーと共に生活しながらセント・メアリーズ校での英語講座や演劇、芸術、体育などの授業に参加したほか市内観光などを楽しみ、短期ながら充実した留学生活を終えて、3 月 26 日(火)、無事帰国した。

28. ニュージーランド長期留学帰国報告会を開催

平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月までの 1 年間、ニュージーランドのサザンクロス語学学院に長期留学をしていた総合学科 3 年生による帰国報告会が平成 30 年 5 月 9 日(水)に、平成 30 年 1 月から 12 月まで、ニュージーランドの姉妹校セント・メアリーズ校で長期留学をしていた普通科 2 年生の帰国報告会が平成 31 年 1 月 23 日(水)にそれぞれ行われ、両名は、ホストファミリーや学校生活の様子を紹介する写真やスライドを紹介しながら、異文化体験の楽しさや自らの成長について語った。

《京都聖カタリナ高等学校》

【教育】

1. 新体制による運営

本年度より新たに就任した園田研一校長による新体制のもと、平成 30 年 4 月 10 日(火)、「第 67 回入学式」が挙行された。平成 28 年度より募集停止となっていた福祉科が本年度 4 月で廃止され、『ワンストップ・スリーディー　マイドリーム教育』を特長として掲げる看護科(5 年一貫課程)と普通科の 2 学科体制へと移行したのを機に、小規模校だからこそできるきめ細やかな教育のさらなる充実化に取り組んでいる。

2. 看護科教育の充実

○国家試験対策の充実

平成 28 年度より 2 クラス制(入学定員 64 名)となった看護科は、学年特性に応じた学習支援体制による国家試験対策の充実を図っている。本年度は、看護科 3 学年を対象に放課後学習会(30 分授業)を開始したほか、新年度開始早々、専攻科 1 年生を対象に基礎学力の把握のための模擬試験を、専攻科 2 年生を対象に全国模試をそれぞれ実施した。以降も、成績不振者を対象とした短期集中型の対策講座や看護専攻科 1・2 年生対象の国家試験対策ガイダンスを実施するなど、細やかな指導や支援を継続的に行った。

○e-ラーニングの導入

本年度より、国家試験対策のための e-ラーニング(インターネットを利用して学習できるシステム)を導入し、学習効果の向上を目指した。

○看護師国家試験における成果

上記のような取り組みの結果、平成 30 年度(第 108 回)看護師国家試験における合格率は 89.7%(39 名受験、35 名合格)と、前年度(83.9%)から向上した。

3. 生徒・教職員対象カトリック講話を実施

平成 30 年 6 月 4 日(月)、聖ドミニコ宣教修道女会管区長の中山紀美子シスターを講師に迎え、「カトリック学校で何を学ぶか」というテーマのもと、生徒・教職員対象のカトリック講話を実施した。長年カトリック教育に携わった経験を持つ中山シスターの話は、参加した生徒や教職員一人ひとりにとって、「このカトリック校で学ぶべきこと、実践すべきこと」を捉え直す貴重な機会となった。

4. 人権講演会を開催

平成 30 年 10 月 26 日(金)、「ジェンダー・個性」をテーマに人権講演会を開催した。性同一性障害を持つ主人公の半生を追ったドキュメンタリー映画『女になる』が上映された後、LGBT(性的少数者)の当事者である主演の中川美悠氏と京都映画センターの宇都宮信人氏のトークショーが行われ、生徒たちは、多様性を認め合う社会の重要性や性差を超えた人と人との結びつきの大切さについて学んだ。

5. 聖カタリナ大学・短期大学部による出前授業を実施

○平成 30 年 9 月 5 日(水)、普通科 1 年生対象のマイドリーム講座(子ども保育系)として、聖カタリナ大学短期大学部保育学科の大上紋子教授による出前授業が行われ、生徒たちは、子どもの成長・発達に応じた幼児体育について、実技を交えて楽しく学んだ。また、同日、同大学入試課長による大学説明会が実施され、生徒たちは姉妹校への理解を深めた。

○平成 30 年 10 月 24 日(水)、普通科 1 年生対象のマイドリーム講座(健康スポーツ系)として、聖カタリナ大学健康スポーツ学科の鈴木茂久講師による出前授業が行われた。鈴木講師は、J リーグのトレーナーとして選手たちをフィジカル面でサポートした経験があることから、今回は、スポーツ選手が負傷を予防したり、負傷部位の悪化を防止したりするためのテーピングについて、デモンストレーションを交えた講義となった。

6. 普通科5系の発表会を開催

平成 30 年 12 月 13 日(木)、普通科 2･3 年生が、それぞれ所属する系で学んだことを発表する「5 系発表会」が開催された。聞き手として参加した 1 年生は、進路の参考にするため、先輩たちのプレゼンテーションに熱心に耳を傾けた。なお、発表会終了後には、次年度の系選択アンケートが実施された。

7. 調理パティシエ系が高校生カフェを開催

平成 31 年 2 月 5 日(火)、調理・パティシエ系の普通科 3 年生が、教員や保護者に手作りスィーツを提供する「高校生カフェ」を開催し、3 年間の学習成果を披露した。生徒たちは、地産地消をコンセプトに試行錯誤を繰り返しながらメニュー開発を行い、当日は 3 種のケーキを提供したほか、カフェらしい空間作りに工夫を施すなどして、3 年間の集大成の場に臨んだ。当日の様子は、『京都の高校　パティシエは生徒』として地元紙で紹介された。

8. 教職員研修に注力

○平成 30 年 7 月 26 日(木)、「将来に向けての見直しと課題の発見」をテーマに、校内 1 日教職員研修を実施した。当日は、テーマに沿って、グループディスカッションや全体会での発表・討議を行い、学校の将来を展望する中で見えてきた様々な課題の共有化を図った。

○平成 30 年 11 月、キャリア 3 年以内の教員を対象として、全教員による授業参観を実施したほか、全教員を対象に、生徒による授業アンケートを実施した。また、12 月には、授業評価システムの一環として、授業担当者の科目・クラス別授業アンケートを実施するなど、教員の能力向上に取り組んだ。

○平成 31 年 3 月 28 日(木)･29 日(金)の両日、教職員研修を実施し、全教職員に教務内規や生徒指導内規などの諸規程について説明を行い、コンプライアンスの徹底に努めた。

【学校生活】

9. 新入生フレッシュセミナーを開催

平成 30 年 4 月 12 日(木)･13 日(金)、外部研修施設(あうる京北)において、本年度入学生 91 名を対象にした「フレッシュセミナー」が開催された。本校において南丹警察署による非行防止教室が行われた後、研修施設での校長講話、教務部・生徒指導部・進路部等による研修や映画鑑賞などが行われた。1 泊 2 日の研修を通して本校生徒としての自覚と連帯感が生まれ、学校生活の良いスタートを切る機会となった。

10. スマホ・ケータイ安全教室を開催

スマートフォンや携帯電話の利用に関連した危険やトラブルを未然に防ぐため、 平成30年4月16日(月)、1 年生対象の「スマホ・ケータイ安全教室」を開催した。当日は、専門の講師が、スマートフォン、特に SNS の使用にまつわるトラブル事例を具体的に挙げながら、「決して他人ごとではない」として、生徒たちに対して注意喚起を行った。なお、この安全教室は、大手通信会社が全国に無料で展開しているもので、本校においても啓発活動の一環として同社に委託し開催に至った。

11. 喫煙防止教室を開催

平成30年11月5日(月)、南丹保健所及び南丹市役所から講師を招いて、1年生を対象に「喫煙防止教室」を開催した。当日は、たばこと健康被害やたばこの海外事情などについて詳しく学んだ。

12. サイバー犯罪被害防止教室を開催

京都府警察と連携して若者をサイバー犯罪から守るための活動をしているネット安心アドバイザーを招いて、平成 31 年 3 月 13 日(水)、1 年生対象の「サイバー犯罪被害防止教室」を開催した。生徒たちは、SNS でのトラブルや違法性のある問題投稿、ネットでの個人情報、ネットでの出会いなどをテーマに、被害に遭わないための知識やネットモラルなどについて、多くのことを学んだ。

13. 開校記念ミサ・芸術鑑賞を実施

平成 30 年 4 月 27 日(金)、全校生徒及び全教職員が参加して、開校記念ミサを行った。当日は、グアダルペ宣教会アントニオ・カマチョ神父様を迎えてミサを行い、学園の保護者であるシエナの聖カタリナのご保護を祈った。また、午後からは、『和泉元彌の狂言らいぶ』と題して 2 つの演目を鑑賞した。参加した生徒や教職員は、ワークショップを交えての「90 分らいぶ」を楽しむとともに、600 年続いている狂言の魅力や日本の伝統芸能の奥深さについて理解を深めた。

14. 進路指導・キャリア支援の充実

〇小論文ガイダンス

・平成 30 年 4 月 16 日(月)、外部より専門家を招き、普通科 3 年生対象の「小論文ガイダンス」を実施した。生徒たちは、6 月から始まる AO 入試のエントリーシートや臨床実習のレポートの書き方についての基本を学び、実践編として 4 月 23 日(月)には小論文テストにチャレンジした。

・平成 31 年 1 月 21 日(月)、普通科 2 年生を対象とする「小論文ガイダンス」を実施した。当日は、小論文の構成作りのコツについて学んだ後、「これから挑戦したいこと」をテーマに各自小論文に取り組み、仕上げとして、書き方のルールについて例文を通して学習した。

〇進路説明会

・平成 30 年 5 月 25 日(金)、普通科 3 年生を対象に進路説明会が開催された。進学を希望する生徒たちは志望大学・短大・専門学校の教員との懇談会に参加し、また、就職希望の生徒たちは面接時のマナー研修に参加し、面接に関する寸劇を観賞した後、面接における注意点を踏まえながら練習を重ね、進路実現への意欲を高めた。

・平成 30 年 6 月 2 日(土)、普通科 3 年生の保護者を対象に進路説明会を実施した。進学希望者には日本学生支援機構などの支援制度の説明を行った。

〇職業体験講座

平成 30 年 10 月 29 日(月)、普通科 1・2 年生を対象に、大学・短期大学・専門学校など 16 校の参加を得て、「職業体験講座」を実施した。

15. 3 年生・専攻科生対象 就職説明会を開催

平成 30 年 7 月 25 日(水)、普通科・看護科 3 年生及び専攻科生を対象に就職説明会を開催した。本年度より設置された各事業所・施設等の相談ブースには多数の生徒が訪れ、仕事の内容や職場環境などについて熱心に質問し、情報収集に取り組んだ。

16. キャンパスツアーを実施

平成 31 年 3 月 15 日(金)、普通科 1・2 年生を対象にキャンパスツアーを実施した。当日は、花園大学と京都文教大学の 2 班に分かれて、それぞれの特色ある教育環境を見学した。

17. 生徒満足度調査を実施

平成 31 年 3 月、学校評価の一環として、全校生徒を対象に「満足度調査」を実施した。調査結果は、今後の学校運営や授業、部活動等の改善に活かしていくこととしている。

18. 学園祭を開催

平成 30 年 9 月 14 日(金)・15 日(土) の 2 日間に亘り、学園祭が催された。1 日目は聖カタリナホールにおいて各クラスや部活動等による舞台発表が、2 日目はクラス展示、模擬店、クラブ活動発表などが行われ、保護者や生徒の友人など多数の来場者があり、大いに盛り上がった。

19. 防災訓練を実施

平成 30 年 10 月 22 日(月) 、大規模地震が発生したとの想定で防災訓練を実施し、全校生徒が体育館への避難行動を取り、安全確保のための心構えと行動を確認する機会とした。近年、甚大な災害が多発していることから、本校では、毎年様々な想定のもと防災訓練を行っており、災害への備えを万全にするための一助としている。

20. 地元番組が本校を紹介

平成 30 年 12 月 24 日(月)、MBS 毎日放送の情報番組「ちちんぷいぷい」の学校紹介コーナーで、本校が紹介された。

【地域連携・地域貢献】

21. ボランティア活動を展開

○聖母の集いボランティア

平成 30 年 5 月 15 日(火)、本校ホールにおいて「聖母月のつどい」が開催され、マリア像への献花と祈りが捧げられた。午後からは各グループに分かれて近隣駅周辺の清掃活動や高齢者施設の訪問を行ったほか、募金活動にも取り組み、集まった募金 92,681 円は東日本大震災の義援金としてカリタスジャパンを通じて寄付された。また、7 月には生徒会と宗教情操委員が中心となって校内募金活動を 17 日(火)と 20 日(金)の両日行い、集まった募金 40,768 円はカリタスジャパン緊急救援募金を通じて西日本豪雨災害の被災地に届けられた。

○「北海道胆振東部地震」被災地支援活動

平成 30 年 10 月 10 日(水)・11日(木)の両日、生徒会と宗教情操委員が中心となり、校内で「北海道胆振東部地震」被災地への募金活動を行った。寄せられた募金 21,649 円は、南丹市社会福祉協議会を通じて被災地へ送られた。

○クリスマスボランティア

平成 30 年 12 月 17 日(月)、「北海道胆振東部地震」被災地支援を目的として校内募金を行ったほか、グァダルペ宣教会アントニオ・カマチョ神父様によるクリスマスミサの後、クリスマスボランティア活動として二条駅前や京都駅前、三条教会前などにおいて募金活動を行い、集まった募金 105,257 円は南丹市社会福祉協議会を通じて被災地へ送られた。

○インターアクト部の主な活動

・平成 30 年 12 月 16 日(日)、京都中部総合医療センターのクリスマス会においてボランティア活動を行った。当日は、クリスマス会のための会場設営を行った後、センター職員の指導のもと、患者の車イスでの送迎を手伝い、また、クリスマス会に参加して手品や演劇、合唱・合奏など患者さんと共に観賞し、会の盛り上げに一役買った。

・平成 31 年 3 月 3 日(日)、桂川流域クリーンネットワーク主催の「第 12 回桂川流域クリーン大作戦」に参加し、流域の清掃活動を行った。

22. 排除 ZERO キャンペーンに参加

カリタスジャパンの「排除 ZERO キャンペーン　～国籍をこえて人びとが出会うために～」の呼びかけに応えて、校内にポスターを掲示し、啓発活動を展開した。このキャンペーンは、国際カリタスが移住者問題などの解決のため、多国籍・多文化社会の実現を目指して国際的な取り組みとして展開している。

【在校生の活躍】

23. 京都府吹奏楽コンクールで金賞を受賞

平成 30 年 8 月 7 日(火)、京都コンサートホールで開催された「第 55 回京都府吹奏楽コンクール」の高等学校の部(小編成)において、金賞を受賞した。

24. 女子スポーツ部が活躍

〇女子サッカー部

平成 30 年 9 月 17 日(月・祝)・24 日(月・休)に行われた「京都府高等学校女子サッカー選手権大会」に、京都聖母学院高等学校との合同チームで出場し、3 位入賞を果たした。

〇女子バレーボール部

平成 30 年 8 月 2 日(木)～4 日(土)、島津アリーナで行われた「京都府私立高等学校バレーボール大会」において 6 位となったほか、続く 8 月 5 日(日)・6 日(月)に京都聖母学院で開催された「近畿カトリック学校女子競技大会」に出場し、8 位となった。

【生徒募集・広報活動】

25. オープンキャンパス・部活オープンデーを開催

平成 30 年 7 月 28 日(土)及び 11 月 10 日(土)、平成 31 年度入学予定者を対象にオープンキャンパスを開催し、計 253 名の中学生が来校し、全体会や学科別授業体験に参加した。また、8 月 18 日(土)及び 11 月 10 日(土)には「部活オープンデー」を開催し、吹奏楽部、男子・女子サッカー部、女子バレーボール部、ダンス部などの部活動体験に計 31 名の中学生が参加した。

26. 私学フェアに参加

平成 30 年 6 月 10 日(日)、みやこめっせ(京都市勧業館)において、京都府内の私立中学校・高等学校の魅力や特色を生徒・保護者に分かりやすく伝えるイベントとして恒例になっている「私学フェア KYOTO」(京都府私立中学高等学校連合会主催)が開催され、府内私立中学・高等学校 40 校のうち 35 校が参加した。当日は、各学校代表生徒による学校ひとことアピールや代表校によるパフォーマンスが披露されたほか、在校生による質問コーナーや教員による学校別相談コーナーが設けられ、多数の来場者があった。本校の相談コーナーには前年度より多い相談があり、普通科・看護科合わせて 102 名の中学生が来訪した。

27. 中学校を個別訪問

平成 30 年度 6 月下旬、本校教員が中学校を個別訪問し、入学生の状況報告や「第 1 回オープンキャンパス」の案内、出前授業の紹介などを行ったほか、8 月下旬に実施した個別訪問では、10 月以降に実施する入試説明会の案内や入試に関する内容確認を行うなど、中学校への情報提供に努めた。

28. 中学校教員対象入試説明会に参加

平成 30 年 8 月 20 日(月)、京都府私立中学高等学校連合会主催の中学校教員対象入試説明会に参加し、集まった約 140 校の中学校の進路指導担当者に対し、本校の魅力や各科の特長、平成 31年度入試などに関する説明を行った。

29. 私立中学・高校展に参加

平成 30 年 9 月 1 日(土)・2 日(日)の 2 日間、みやこめっせ(京都市勧業館)において、京都府私立中学高等学校連合会・京都新聞主催による「第 32 回京都私立中学・高校展」が開催され、学校相談コーナーやパンフレットコーナーに多数の来場者があった。本校のブースにも普通科・看護科合わせて 38 名の相談があり、担当教員が入試や学校生活に関する相談に応じた。また、2 日(日)には、「第 10 回フォーラム 挑戦する私学 －期待されるこれからの私学教育－」が開催され、発達障害を抱えるピアニストによる教育講演会が開催された。

30. 京都西地区私立中学高等学校入試相談会に参加

平成 30 年 10 月 27 日(土)、ガレリア亀岡において、京都府私立中学高等学校連合会主催により、合同入試説明会が開催され、本校の相談ブースには 6 名が来場した。

31. 私立中学・高校入試説明会を開催

平成 30 年 11 月 25 日(日)、メルパルク京都において、京都府私立中学高等学校連合会主催による合同入試説明会が開催され、本校の相談ブースには 20 名が来場した。

32. 生徒・保護者対象入試説明会を実施

平成 30 年 10 月 6 日(土)、11 月 17 日(土)、12 月 8 日(土)の計 3 回、本校において、中学生及び保護者を対象に入試説明会を実施し、参加者は生徒・保護者合わせて延べ約80名となった。また、10月20日(土)には、外部会場(メルパルク京都)において入試説明会を実施し、生徒・保護者等、26 名の参加があった。

33. 看護科教員が中学校出前授業を実施

平成 30 年 6 月 20 日(水)及び 8 月 29 日(水)、看護科教員が、看護において大切な「コミュニケーション」を題材に中学校での出前授業を行い、本校看護科の認知度向上を図った。

【教育環境整備】

34. 本校女子トイレが海外誌で紹介される

平成 30 年 9 月にリノベーション工事が完了した女子トイレ(東館 3 階)が、イタリアの有名建築雑誌『domus』で紹介された。「挑戦的で、未来に向かう強く美しい女性」をイメージしたとする建築家、瀧尻　賢氏(京都府出身)のデザインは、学校特有の閉鎖的なトイレのイメージを一新するもので、生徒たちにも驚きと共感をもって受け入れられた。

《光ヶ丘女子高等学校》

【教育】

1. 国際教養科「合宿学習」を実施

平成 30 年 7 月 31 日(火)～8 月 2 日(木)の 3 日間、愛知県蒲郡市の松風園において、国際教養科 1 年生の希望者を対象に合宿学習を実施した。参加した生徒 73 名は、一学期の復習やグループワーク、進路学習(入試情報)などに取り組んだ。

2. Women's Empowerment Program を実施

平成 30 年 8 月 13 日(月)～17 日(金)の間、国際教養科において「Women's Empowerment Program」が実施され、生徒 26 名が参加した。このプログラムは、米国などからの留学生と共に英語を使ってディスカッションやプレゼンテーションを行うもので、5 日間の集中プログラムを通して、英語力はもとより、英語を使って自分の意見を主張する力や異なる価値観に対する理解力を養うことを目標として、2 年前から実施されている。

3. 普通科1年生保護者対象コースガイダンスを実施

普通科では 2 年次より希望進路に応じて 3 クラス(文系クラス・理系クラス・福祉クラス)を選択することから、1 年生の保護者を対象にコースガイダンスを毎年度実施し、本校の進路指導方針やスケジュール等への理解を深めてもらう機会としている。本年度は平成 30 年 6 月 9 日(土)に実施され、保護者 273 名が参加した。

4. 教員研修を実施

○平成 30 年 4 月 27 日(金)、教職員を対象に、電話の応対や言葉遣いなどのマナー研修を実施した。参加した教職員にとって基本に立ち返る機会となった。

○平成 30 年 5 月 11 日(金)の現職教育において、SDGs(持続可能な開発目標)への取り組みを本校における教育活動や広報活動にどう結び付けていくかについて、教員が意見発表を行った。

○平成 30 年 6 月 7 日(木)、現在本校の非常勤講師で、元岡崎市中学校長会長　酒井久男氏を講師に迎え、「私が願い目指してきたもの」というテーマで現職教育講演会を開催した。

○平成 31 年 1 月 21 日(月)～29 日(火)の間を公開授業週間として 5 教科の公開授業を実施し、授業力の向上を図った。また、期間中に実施された保護者対象授業参観には、90 名の参加があった。

【学校生活】

5. 進路指導・キャリア支援の充実

○平成 30 年 4 月 14 日(土)、3 年生の保護者を対象に「進路説明会」を開催した。参加した保護者 220 名に対し、担当教員より推薦制度などについて説明を行った。

○平成 30 年 4 月 21 日（土）、長期留学制度に関するガイダンスを行い、120 家庭の参加があった。

○平成 31 年 3 月 1 日(金)、国際教養科の 1･2 年生を対象に、同科の OG による進路ガイダンスが行われた。当日は大学へ進学した 30 余名の OG が来校し、後輩たちに大学受験や大学生活などについてアドバイスを行った(写真)。

6. 4DAYS 大学プロジェクトを実施

平成 31 年 1 月 8 日(火)～11 日(金)の 4 日間、「ひと足先に大学の学びを体験しよう」という目的で、3 年生を対象とする恒例の「4DAYS 大学プロジェクト」が開催された。また、同期間、対象を変えて、様々な業界で活躍中のゲストを講師に、「職業」に関する特別講座が開かれた。

7. 芸術鑑賞会を開催

平成 30 年 7 月 4 日(水)、刈谷市総合文化センターにおいて、和太鼓と津軽三味線の鑑賞会を開催した。生徒に加え、保護者 50 名も参加し、日本の伝統芸能を楽しんだ。

8. 中学校連絡会を開催

平成 30 年 7 月 6 日(金)、岡崎市・安城市・幸田地区の中学校教員を招き、前年度の進路実績及び本年度の現況報告、校内施設見学、出身中学校別に生徒との懇談会等を行い、参加者には、自校出身者の動静及び本校への理解を深めていただいた。

9. 学校行事に多数の来場者

○平成 30 年 9 月 14 日(金)、15 日(土)に開催された「第 51 回文化祭」において、各部活動による発表会が行われ、1,600 名を超える来場者があった。

○平成 30 年 9 月 26 日(水)、天候不順のため順延となっていた「第 56 回体育大会」が行われた。当日は、オーストラリアの姉妹校ギプスランドグラマースクールからの訪問団も参加して、大いに盛り上がった。

○平成 30 年 12 月 15 日(土)、16 日(日)の両日、岡崎市民会館において「クリスマスページェント」が公演された。各回とも、本校関係者のほか西三河地区の中学校からも校長や教職員らが多数来場し、全 3 公演で約 3,600 名の観客を動員した。

○平成 30 年 12 月 20 日(木)、本校正門前駐車場に特設会場が設けられ、吹奏楽部・合唱部を中心とするクリスマスキャロルが披露された。当日は、会場に飾られたイルミネーションのもと、近隣の住民約 200 名も来校し、生徒とともにクリスマスを祝った。

【地域連携・地域貢献】

10. SDGsへの取り組み

○国連が提唱する SDGs と本校との関わりをまとめたリーフレット、『光ヶ丘×SDGs』を制作した。本校の普段の「学び」や「活動」が国際貢献につながっていること、また、さらにつながることができる可能性を持っていることを『SDGs を学ぶ』、『SDGs で学ぶ』、『SDGs に学ぶ』という視点から纏めたもので、資料編集には、教員へのアンケートのほか、エンジェル部によるポスターや国際教養科 3 年生の選択授業「地域研究 B」での話し合い活動の成果などを参考にした。

○平成 30 年 12 月、縦 3 メートル・横 2 メートルサイズの「SDGs クリスマスツリー」を制作した。生徒たちは、「自分の生活を通してできる SDGs」をテーマに計 300 枚以上のカードを作成し、それらが巨大ツリーを彩るオーナメントとなった。このツリーは、一定期間、特別教育棟 1 階ロビーに展示された。

○世界の衛生問題について考える国連提唱の「世界トイレデー」に因んで、平成 31 年 1 月より、校内で使用するトイレットペーパーをすべて「FSC®認証紙」に変更した。この取り組み

は、女子校として全国初となった。

○3 月 8 日が国連の「国際女性デー」にあたることから、平成 31 年 3 月 8 日(金)、その象徴ともいえるミモザの苗を『再生プラスチック植木鉢』に植え、今後、「世界の女性を取り巻く諸課題とその解決のためのアクション」を考えていくシンボルとして育てていくこととした。なお、『再生プラスチック植木鉢』は、前年度より生徒会の呼びかけで行われている「ハブラシ回収プログラム」(写真)の還元としてテラサイクルジャパンより、また、植樹された苗は地元企業よりそれぞれ寄贈いただいた。

11. 聖母をたたえる集いを開催

平成 30 年 5 月 31 日(木)、全校生徒が集会して「聖母をたたえる集い」を行った。午後からは学年ごとに分かれて、1 年生は福祉実践教室に参加し車椅子や手話・点字などを体験したほか、2 年生は雨天のため予定していた学校周辺の清掃活動を取止め雑巾作りを、3 年生は施設訪問など、恒例となっている奉仕活動に取り組んだ。

12. 奉仕活動を実施

平成 30 年 12 月 14 日(金)、全校一斉に奉仕活動を実施した。生徒たちは学年別に、学校周辺の清掃活動やクリスマスカード作り、病院慰問などに取り組んだ。

【在校生の活躍】

13. 運動部

○ダンス部

・平成 30 年 8 月 9 日(木)、「第 31 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)」の創作コンクール部門において、本校ダンス部創部 30 年にして初の 1 位となり、文部科学大臣賞を受賞した(写真)。

・平成 30 年 9 月 24 日(月・休)、刈谷市総合文化センターで発表会を開催し、2 回公演で延べ 3,000 人を動員した。

○陸上部

・平成 30 年 6 月 17 日(日)、「第 65 回東海高等学校総合体育大会・陸上競技」の 1,500m と 3,000mの 2 種目において、本校 3 年生の藤中佑美選手と山本有真選手が 1 位、2 位を独占した。なお、藤中選手は、8 月 6 日(月)に開催された「第 71 回全国高等学校総合体育大会・陸上競技」の 3,000m においても 8 位入賞の好成績を収めたほか、平成 31 年 1 月 13 日(日)の「第 37 回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会」にも出場し、愛知県の優勝に大きく貢献した。

・平成 30 年 12 月 23 日(日・祝)に行われた「第 30 回全国高等学校女子駅伝競走大会」へ 2 年連続の出場を果たした。結果は 20 位となったが、本校の健闘に多くの支援者から激励と寄付金が送られた。

・平成 31 年 1 月 20 日(日)の「第 70 回岡崎市民駅伝競走大会」に出場し、高校生女子の部で優勝したほか、本校 OG が一般の部に出場し、2 位を獲得した。

14. 文化部

○吹奏楽部

・平成 30 年 8 月 26 日(日)、「2018 年度(第 73 回)東海吹奏楽コンクール」(朝日新聞社主催)の高校 A 編成の部において 5 年連続の 1 位(朝日新聞社賞)を受賞し(写真)、10 月 21 日(日)に開催された「2018 年度(第 66 回)全日本吹奏楽コンクール」に東海ブロック代表校として出場し、銀賞を獲得した。また、指揮者の日野謙太郎教頭が 15 回目の全国大会出場を達成し、指揮者表彰を受けた。

・平成 30 年 10 月 28 日(日)、東京・文京シビックホールで行われた「第 24 回日本管楽合奏コンテスト」に出場し、最優秀賞とブレーン賞を受賞した。
・平成 30 年 11 月 10 日(土)・11 日(日)、横浜みなとみらいホールで開催された「第 20 回全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜」(日本高等学校吹奏楽連盟主催)に出場し、理事長賞と JBA 下谷賞を受賞した。
・平成 31 年 3 月 3 日(日)に行われた「第 31 回中部日本個人・重奏コンテスト」の県大会に出場し、金管八重奏とフルート四重奏が金賞を、フルートソロ 2 名が金賞を受賞するなど優秀な成績を収め、3 月 24 日(日)に岐阜県で行われた本大会では金管八重奏が1位を獲得した。
・「愛知県アンサンブルコンテスト」で金賞を受賞した金管八重奏と管弦八重奏は、平成 31 年 2 月 10 日(日)に長野県で行われた「2018 年度東海アンサンブルコンテスト」へ出場し、金管八重奏が金賞を受賞、管弦八重奏が金賞と朝日新聞社賞を受賞して全国大会への出場を決めた。
・平成 31 年 3 月 21 日(木・祝)、札幌コンサートホール Kitara で行われた「第 42 回全日本アンサンブルコンテスト」において、管弦八重奏が銀賞を受賞した。
・平成31年3月29日(金)、名古屋国際会議場センチュリーホールにおいて「第42回吹奏楽部定期演奏会」を開催し、2,900 人近い観客数を動員した。

○合唱部
・平成 30 年 9 月 22 日(土)、「第 71 回中部合唱コンクール」の高等学校部門 B グループで金賞を受賞した。
・平成 31 年 3 月 27 日(水)、知立市文化会館において「第 42 回合唱部定期演奏会」を開催し、900 人近い観客数を動員した。

○放送部
・平成 30 年 6 月 17 日(日)、「第 65 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト・愛知県大会」のアナウンス部門において、石原彩希さんと丹下寧香さんの 2 名が優良賞、朗読部門において、竹内綾さんが優良賞、テレビドキュメント部門で本校の作品が優良賞をそれぞれ受賞し、全国大会への出場を決めた。
・平成 30 年 7 月 24 日(火)～26 日(木)に開催された「第 65 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト」のアナウンス部門において、石原彩希さんが入選、テレビドキュメント部門において制作奨励賞を受賞した(写真)。

・平成 30 年 11 月 11 日(日)の「第 31 回愛知県高等学校総合文化祭・放送部門県大会」のアナウンス部門で、石原彩希さんが優秀賞を受賞し、全国大会への出場を決めた。

○写真部
・「全日本写真展 2018」(全日本写真連盟・朝日新聞社主催)の高校生の部で、3 年生の前川りえるさんが入選したほか、「学研 CAPA フォトコンテスト」の学生の部で、2 年生の峯田花帆さんが 1 位を獲得した。
・「第 40 回よみうり写真大賞」の中高生フォト部門で 2 席の成績を収め、読売新聞(全国版)に作品が紹介された。

【国際交流・海外研修】

15. 海外語学研修を実施

○国際教養科(2 年生)語学研修
・台湾研修旅行(7 月 11 日～14 日)
69 名が姉妹校・静修女子高級中学校を訪問したほか、現地での異文化体験を楽しんだ。
・カナダ研修旅行(7 月 15 日～8 月 12 日)
19 名が現地ホームステイや異文化体験、姉妹校にて語学研修などを行った。
・オーストラリア研修旅行(7 月 19 日～8 月 25 日)
14 名が現地ホームステイや異文化体験、姉妹校にて語学研修などを行った。

○普通科(1・2 年生)海外留学プログラム
・ニュージーランド研修(7 月 25 日～8 月 8 日)
26 名がオークランド近郊でのホームステイや現地生徒との異文化交流を体験したほか、英会話クラスを受講した。

○普通科(2 年生・福祉コース)研修旅行

・デンマーク研修旅行(10 月 8 日～13 日)

27 名が参加し、福祉先進国デンマークの福祉の現場を視察した。

16. オーストラリアの姉妹校が来校

平成 30 年 9 月 22 日(土)～9 月 29 日(土)の間、オーストラリアの姉妹校、ギプスランドグラマースクールより生徒 13 名と引率教員 2 名が来校し、本校生徒の家庭でホームステイをしながら日本文化を体験したほか、本校の授業や体育大会に参加して親交を深めた。

【生徒募集・広報活動】

17. 学校見学会を実施

平成 30 年度学校見学会は、平成 30 年 6 月 2 日(土)及び 8 月 29 日(水)、10 月 20 日(土)、12 月 2 日(日)の計 4 回実施された。各回、ウェルカムステージ・体験入部・学科説明・入試相談などが行われ、中学生・保護者・教員合わせて過去最多となる延べ 2,747 名の参加があった。

18. 三河地区私立高校合同説明会を開催

平成 30 年 9 月 25 日(火)、26 日(水)の 2 日間、三河地区の私立高校が、地区内の中学校の進路指導主事を対象に合同説明会を開催した。本校は、校長及び教頭、入試広報担当教員ら 4 名が出席して、初日に説明会を行った。

19. 私塾対象の合同説明会に参加

平成 30 年 10 月 17 日(水)、竜美丘会館(岡崎市)において私塾対象の合同説明会が開催され、本校からは、教頭や入試広報室長、入試広報副室長が出席した。当日は、3 会場に分かれて全体説明会が行われた後、学校別に個別相談会が実施された。

20. 私学展に参加

平成 30 年 11 月 18 日(日)、イオンモール岡崎のセントラルコートにおいて「西三河私立学校展・進学相談会」が開催された。当日は、各校の進学相談ブースや生徒による学校紹介・相談コーナー、写真展示コーナーなどが設けられ、本校は 29 件の相談を受けた。

【教育環境整備】

21. 新校舎が竣工

テニスコート跡地に建設中だった新校舎「南館」が、平成 30 年 4 月 27 日(金)に竣工した。当日は、校長はじめ教職員のほか、施工業者や設計業者、同窓会、後援会、PTA 役員など関係者約 30 名が参集し、新校舎の完成を祝った。

■幼稚園関連

《聖マリア幼稚園》

○平成 30 年 5 月 31 日(木)、新居浜市在住の版画家・石村嘉成氏と父親の石村和徳氏を招いて、「自閉症の我が子と歩んで　～版画は息子のことば～」と題した保護者会講演会を開催した。自閉症による発達障がいを持つ嘉成氏は、高校生から版画制作を始め、以降、国内外のコンクールで入賞するなど、版画家として高い評価を受けている。父親の和徳氏は講演の中で、幼少期から今までの家族の歩みに触れ、自閉症と診断された我が子の自立に向け手探りの療育に取り組んできたことや、嘉成氏が版画の創作活動を通して人に認められる喜びを知り、それが生きることへの自信につながったことなど、父親としての姿勢や思いを語った。参加した保護者たちは、和徳氏の親としての揺るぎない信念に感銘を受けるとともに、嘉成氏の生命感あふれる版画作品にも魅了されていた。

○絵本には珍しい「死」をテーマにした『ママがおばけになっちゃった！』など多くのベストセラー絵本作家として、また、NHK の子供向け番組や政府の広報誌などのキャラクターデザイナーとして人気のあるのぶみ氏を招いて、平成 30 年 12 月 7 日(金)、読み聞かせの会を開催し、約 240 名の親子が独創的な“のぶみワールド”を満喫した。

○平成 30 年 4 月 5 日(木)、新学期のスタートに合わせ、新しいスクールバス 2 台が納車された。園児にとって愛着のある旧スクールバスの愛称「天使号」、「ノア号」とともに車体のデザインもほぼそのまま受け継いで、市内 6 コースを走行している。

○教育環境における安全確保のため、本年度は以下のような園内活動や施設整備等に取り組んだ。
- 5 月 7 日(月)、6 月 8 日(金)、10 月 4 日(木)、1 月 22 日(火):様々な災害を想定した防災訓練を実施
- 6 月 27 日(水):新居浜市防災安全課より 3 名の職員が来園し、交通安全教室を開催
- 6 月 29 日(金):防犯カメラを更新
- 9 月 12 日(水):警備保障会社主催による「さすまた講習会」を開催
- 3 月 29 日(金):園舎外構ブロック塀の改修工事が完工

《聖家族幼稚園》

○政府が待機児童対策として打ち出した「幼稚園における 2 歳児の受け入れ」について、本園は、本年度より在園児の弟妹を中心に定員 6 名枠で受け入れを開始した。4 月 12 日(木)に「2 歳児始まりの会」を催し、以降、本園の特徴であるモンテッソーリ教育を主とした保育活動を行っている。初めての取り組みであるため、特に安全面に配慮しながらも、楽しくのびのびとした保育活動を展開し、2 歳児たちの成長に日々手応えを感じている。次年度は定員を 12 名に増やして、受け入れ体制を質・量ともにさらに拡充していく計画にある。

○平成 30 年 5 月 23 日(水)、恒例となっている「第 41 回口丹地区私立幼稚園　園児大会」(京都府・京都府私立幼稚園連盟主催)が亀岡市民体育館で開催された。当日は、本園を含む 5 園の年長児たちが、団体競技やふれあい遊び、合唱、フォークダンスなどで交流を深めた。また、6 月 29 日(金)には、未就園児の親子対象「いちにち出前ようちえん」が亀岡市において開催され、幼稚園紹介コーナーや遊びのコーナーなどに約 310 名の親子が来場した。参加者は漸減傾向にあるものの、口丹地区の私立幼稚園を PR する良い機会になっており、本園も毎年参加している。

○平成 30 年 11 月 14 日(水)、祖父母参観が行われた。参加した「おじいちゃん・おばあちゃん」たちは、園児らと一緒に制作活動などを行い、家庭とは一味違う「孫」とのふれ合いを楽しんだ。

○平成 31 年 1 月 9 日(水)、年長児を対象に「自転車教室」を実施した。当日は、南丹警察署より署員 2 名と見守り隊 3 名が来園し、自転車の点検の仕方や正しい乗り方、交通ルールなどについて、実技を交えながらの指導が行われ、園児たちも熱心に見聞きしていた。

《聖カタリナ幼稚園》

○平成 30 年 5 月 18 日(金)、非常勤教員の山本忍氏が、光ヶ丘女子高等学校の 1 年生を対象に講演した。自閉症の障がいを持つ娘の山本萌恵子さんは、リオ・パラリンピック陸上競技 1500m(知的障がい)に出場した実績があり、現在も、光ヶ丘女子高等学校で非常勤職員として働きながら 2020 年の東京パラリンピックを目指してトレーニングに励んでいる。その成長を見守り支えてきた母、山本氏の言葉は、今後様々な立場で障がい者と関わるであろう生徒たちの心深くに届いたようだった。

○平成 30 年 6 月 29 日(金)、年長児対象の園外保育として名古屋市科学館を訪れた。宇宙や科学の世界への興味関心が高まり、世界一のプラネタリウム観覧の感動は心に残る体験となった。車いすで参加した園児もいたが、ともに楽しい時間を分かち合うことができ、子どもたちの心の育ちを実感する園外活動となった。

○平成 31 年 2 月 12 日(火)、父母の会の企画により、本園園長が講師となって、「モンテッソーリ講習会」を開催し、78 名の保護者が参加した。当日は、普段各クラスに設置している教具棚を会場となったホールに移動展示し、保護者が理解しやすいよう、教具の名称や適応年齢などを紹介するカードを掲示したほか、モンテッソーリ教育の歴史や理論について、実演も交えながら説明を行った。藤井聡太棋士が幼少期に受けていたことで注目を集めている中、子どもの主体性や自主性を育むことを特徴とするモンテッソーリ教育への正しい理解を促す機会として手応えのある会となった。

○平成 31 年 3 月 5 日(火)、本園初の試みとして、光ヶ丘女子高等学校の教員による「サイエンスショー」を開催した。園児たちは、目の前で繰り広げられる科学の世界を驚きとともに楽しんだ。

《ロザリオ幼稚園》

○平成 30 年 6 月 6 日(水)、近隣にあるさくら幼稚園との交流保育が実施された。当日は、本園の年長児がさくら幼稚園を訪れ、お茶会やゲーム遊び、昼食会などを通して親睦を図った。この交流保育は、園児たちの経験を広め、社会性・協調性を育むことを目的としており、恒例行事となっている。本年度は 2 回目を 11 月 6 日(火)に石手川公園で、3 回目を平成 31 年 2 月 14 日(木)に本園で、各回、会場を変えて実施した。

○平成 30 年 6 月 9 日(金)、恒例となっている卒園児の集い、「第 50 回こひつじ会」を開催した。当日は、大分県や岡山県など愛媛県外からの参加や、高校生になった元園児の参加もあり、園歌の合唱やゲーム、写真撮影などで久しぶりの再会を喜び合った。

○平成 30 年 8 月 17 日(金)、本園教員 5 名が、聖カタリナ大学短期大学部保育学科が主催するリカレントセミナーに参加して、保育力の向上に取り組んだ。新たに習得した知識や技能は、各自の保育活動に活かすよう実践に努めているほか、園内研修などにおいて他の教員との共有化を図っている。

○平成 31 年 1 月 23 日(水)、年長児を対象に、保護者も参観する中、「花育」が行われた。「花育とは、花を育てることではなく、花に触れて心を育てること」だと講師(園児の保護者)から教わった園児たちは、花の香を嗅いだり、花弁や葉に触れたり、花の「個性」をじっくり観察した後、提供された花材を使って作品づくりに取り組んだ。完成した作品は、どれも個性的で、園児たちは互いの作品を褒め合い、教室は、「花育」にふさわしい和やかで優しい雰囲気に包まれた。

《聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園》

○松山市は、毎年、市内の幼稚園を対象に交通安全モデル園を指定し、年間を通じた交通安全啓発活動を行っている。本年度は本園がモデル園に指定され、平成 30 年 6 月 11 日(月)に執り行われた松山市交通安全推進協議会主催による「平成 30 年度松山市交通安全モデル園指定式」を皮切りにモデル園としての活動がスタートした。その一環として、9 月 21 日(金)、秋の交通安全パレードに年長・年中児が参加して市内の商店街を行進したほか、交通安全教室などの様々な関連行事に参加した。平成 31 年 3 月 15 日(金)には松山市役所において、交通安全用品(ランドセルカバー・集団登校旗)が贈呈され、本園年長児 2 名が「新入学児童代表」としてお礼の言葉を述べた。また、モデル園として交通安全活動に積極的に参加・協力したとして、野志克仁市長より感謝状が贈呈された(写真)。

○平成 30 年 5 月 11 日(金)、新しいスクールバスが納車され、楽しみに待っていた園児たちの出迎えを受けた。前年度には大型スクールバスが更新されており、園児たちは“ピカピカのバス”で通園や園外活動を楽しんでいる。

○平成 30 年 4 月 15 日(日)、北条地区愛媛 CATV 開局 10 周年記念感謝祭において、年長児 14 名がダンスを披露したほか、11 月 11 日(日)には、北条まちづくり協議会主催の「風早レトロ祭」に年長児全員が参加してダンスを披露し、来場者に喜ばれた。また、12 月 24 日(木・休)、松山市総合コミュニティセンターで行われた愛媛県女子体育連盟主催の「第 33 回表現及びダンス等の創作作品発表会」に年長児全員が参加し、他の参加校に臆することなくのびのびとダンスを発表した。こうした園外のイベントに参加することは、園児たちにとって不安を乗り越えたり、地域とのつながりを感じたりする機会となり、心の成長にもつながっている。

○聖カタリナ大学及び短期大学部との連携保育活動の一環として、体育遊びや造形あそび、音楽遊び、保健指導が、それぞれの専門教員により年齢別メニューで提供されている。園児たちは、附属幼稚園ならではの、これらの保育活動を毎回楽しみにしており、新たな体験や学びの機会として成果を上げている。

《5幼稚園共通》

○平成 30 年 11 月 16 日(金)、5 幼稚園の園長を対象に、法人本部(松山市北条)において、「平成 30 年度幼稚園連絡協議会」が開催された。当日は、午前の部として、幼稚園業務支援ソフトのデモンストレーションを、午後の部として、自然災害や犯罪・事故などに対する危機管理や未就園児の受け入れ、教職員の労務管理など、重要テーマに関する協議を行い、今後の対策等について共有化を図った。

■

Ⅳ. 当期に行った主な事業

(1)固定資産の取得状況(第1号基本金組入れ対象事業)

※掲載対象:取得価額 5,000 千円以上

設置校名	細　　目	金　額 (千円)
聖カタリナ大学・短期大学部	GAKUEN システム(ユニバーサルパスポート)　※リース契約	25,784
	カルペンティール第 2 ギャラリー建築工事	14,669
	2 号館(3 教室・4 研究室)空調機更新工事	10,724
	図書(専門図書、学術図書、選定図書、参考図書等)	10,526
	2 号館トイレ改修工事	7,776
聖カタリナ学園高等学校	朝生田体育館耐震補強工事(設計費含む)	131,026
	セミナーハウスグランド拡張・開発工事	73,341
	野球部室内練習場設置工事	44,758
	吹奏楽器更新	9,600
	図書館横駐輪場新設工事	6,696
	セミナーハウス野球部部室新築工事	5,068
光ヶ丘女子高等学校	新校舎建築工事	293,825
	教職員用駐車場用地取得(購入)	177,323
	本館空調設備更新工事	61,642
	北駐車場整備工事	14,656
	教員用ノートパソコン　※リース契約	8,430
聖マリア幼稚園	スクールバス更新 (2 台)　※リース契約	13,372

(2)教育研究経費の主な事業実績

※掲載対象:3,000 千円以上

設置校名	細　　目		金　額 (千円)
聖カタリナ大学・短期大学部	学内 ICT システム等運用・保守業務等委託費 (※管理経費分含む)	北条キャンパス	7,776
		松山市駅キャンパス	5,184
	日常・定期清掃業務委託費	北条キャンパス	5,404
		松山市駅キャンパス	4,458
	図書館データベース等利用料		5,607
	クラブ活動助成金		4,857
	野球部監督業務委託料		4,500
	サッカー部監督業務委託料		3,600
	植栽管理・環境保全業務委託費		4,380
京都聖カタリナ高等学校	東館女子トイレ改修工事		4,500
	本館・東館塗装工事		3,456
光ヶ丘女子高等学校	建物火災・地震保険料 (※管理経費分含む)		4,218

設置校名	細　　目	金　額 （千円）
聖マリア幼稚園	園舎屋上防水工事	4,806
	スクールバス運行料（2 台）	4,406
聖カタリナ幼稚園	スクールバス運行料（2 台）	4,277
ロザリオ幼稚園	スクールバス運行料（3 台）	7,918

（3）管理経費の主な事業実績

※掲載対象：3,000 千円以上

設置校名	細　　目	金　額 （千円）
法人本部	会計監査等契約料	8,640
	理事会・評議員会旅費	5,135
聖カタリナ大学・短期大学部	スクールバス運行料（臨時便を含む）	25,049
	松山市駅キャンパス警備委託料(常駐)	9,983
	大学案内（15,000 部）・入試要項(大学 10,000 部・短大 7,000 部)・WEB 出願ガイド（15,000 部）	7,150
光ヶ丘女子高等学校	学校案内・募集要項(各 31,500 部)	4,536

Ⅴ．財務の概要

（1）平成30年度決算概要

平成 30 年度決算は、資金収支計算書においては[資金収支差額]が△2 億 1 百万円となり、予算比で 26 百万円増、前年度比で 66 百万円増となった。活動区分資金収支計算書における[教育活動資金収支差額]は 3 億 1 百万円となり、予算比で 3 百万円減、前年度比で 68 百万円減となった。また、事業活動収支計算書における[経常収支差額]は 86 百万円となり、予算比で 94 百万円増、前年度比で 2 百万円減となった。また、学校経営の財務上の健全性を表す[基本金組入前当年度収支差額]は 1 億円と、予算比で 94 百万円増、前年度比で 22 百万円増となった。貸借対照表における正味財産額（＝純資産の部合計）は 134 億 97 百万円と、前年度比で 1 億円増となった。

【参考】 収支差額総括表

（単位：千円）

収支差額区分	H30 決算	H30 予算	差　異	前年度決算	差　異
資金収支差額	△201,599	△227,937	+26,339	△268,251	+66,652
教育活動資金収支差額	301,566	304,944	△3,378	369,984	△68,418
経常収支差額	86,343	△7,887	+94,230	88,437	△2,094
基本金組入前当年度収支差額	100,297	6,150	+94,147	77,636	+22,661

◆事業活動収支決算概要

①教育活動収支差額　85 百万円

教育活動収支における事業活動収入は 43 億 63 百万円、事業活動支出は 42 億 77 百万円で、結果、教育活動収支差額は+85 百万円となり、予算比で 94 百万円の黒字増となった。同差額は、学校法人の本業である教育活動における収支バランスの健全性を表す重要指標であることから、赤字となっている設置校(部門)においては赤字幅縮小、黒字への早期転換が喫緊の課題である。

②教育活動外収支差額　83 万円

教育活動外収支における事業活動収入(受取利息･配当金)は 2 百万円、事業活動支出(借入金等利息)は 1 百万円で、結果、教育活動外収支差額は＋83 万円となり、予算比で 6 万円減となった。

③経常収支差額(①+②)　86 百万円

①教育活動収支差額と②教育活動外収支差額の合計額である経常収支差額は+86 百万円となり、予算比で 94 百万円の黒字増となった。同差額は経常的な事業活動が安定的であるかどうかを判断する重要指標であるため、適正黒字の確保が重点的課題となっている。

④特別収支差額 13 百万円

特別収支における事業活動収入は 91 百万円(うち、施設設備寄付金が 9 百万円、施設設備補助金が 82 百万円)、事業活動支出は 77 百万円(うち、退職給与引当金特別繰入額が 22 百万円)で、結果、特別収支差額は＋13 百万円となり、予算比で 8 万円の黒字減となった。

⑤基本金組入前当年度収支差額(③＋④)　1 億円

基本金組入前当年度収支差額は1億円の黒字となり、予算比で94百万円、前年度比で22百万円、それぞれ改善し、結果、下表のとおり、3 年連続の黒字幅拡大となった。

【参考】基本金組入前当年度収支差額(＝旧「帰属収支差額」) 実績推移　(金額単位:千円)

年　度	H26	H27	H28	H29	H30
基本金組入前当年度収支差額	59,700	△271,682	43,827	77,636	100,297
事業収支差額比率	1.6%	△7.1%	1.1%	1.9%	2.3%

(注)上表、平成 27 年度の基本金組入前当年度収支差額の赤字(△271 百万円)の主な要因は、聖カタリナ学園高等学校における永代校舎取り壊し等に伴う特別支出(建物処分差額 308 百万円)の計上によるものである。

⑥基本金組入 (基本金組入額 5 億 19 百万円、取崩額 50 百万円)

第 1 号基本金 ：	当期に取得した固定資産に係る組入高	7 億 39 百万円
	過年度未組入に係る当期組入高	68 百万円
	除却した固定資産に係る基本金額(△)	2 億 49 百万円
	当期未組入高(△)	53 百万円
第 2 号基本金 ：	光ヶ丘女子高等学校校舎耐震改築資金取崩し(計画廃止)	△50 百万円
第 4 号基本金 ：	組入額 14 百万円(※学校法人会計基準の改正に伴う「恒常的に保持すべき資金の額」(第 4 号基本金)の取扱い変更によるもの。)	

⑦当年度収支差額 △4 億 19 百万円、 翌年度繰越収支差額 △55 億 14 百万円

基本金組入後の当年度収支差額は△4 億 19 百万円となり、前年度繰越収支差額△51 億 45 百万円及び基本金取崩額 50 百万円を合算した結果、翌年度繰越収支差額は△55 億 14 百万円となった。

（2）平成30年度計算書類

1）資金収支計算書（平成 30 年 4 月1日～平成 31 年 3 月 31 日）

（金額単位：円）

科　　目	予　算　（A）	決　算　（B）	差　異　(A) - (B)
学生生徒等納付金収入	2,471,904,816	2,472,199,792	△294,976
手数料収入	43,531,188	41,174,120	2,357,068
寄付金収入	63,857,900	71,716,701	△7,858,801
補助金収入	1,554,055,780	1,524,381,693	29,674,087
国庫補助金収入	258,083,000	218,781,000	39,302,000
地方公共団体補助金収入	1,295,972,780	1,305,600,693	△9,627,913
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	89,173,394	101,499,628	△12,326,234
受取利息・配当金収入	2,220,611	2,157,464	63,147
雑収入	160,164,603	243,558,458	△83,393,855
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	397,221,500	323,473,052	73,748,448
その他の収入	526,467,901	536,207,784	△9,739,883
資金収入調整勘定	△641,202,274	△710,233,635	69,031,361
資金収入　小計　①	**4,667,395,419**	**4,606,135,057**	**61,260,362**
前年度繰越支払資金	2,023,827,631	2,023,827,631	－
収入の部 合計	**6,691,223,050**	**6,629,962,688**	**61,260,362**
人件費支出	2,847,209,585	2,911,356,882	△64,147,297
教育研究経費支出	873,918,915	807,001,187	66,917,728
管理経費支出	234,581,265	214,660,153	19,921,112
借入金等利息支出	1,320,212	1,320,212	0
借入金等返済支出	59,627,486	59,627,486	0
施設関係支出	664,503,099	629,055,230	35,447,869
設備関係支出	123,310,598	110,602,085	12,708,513
資産運用支出	60,000,000	60,000,000	0
その他の支出	143,376,401	151,085,658	△7,709,257
［予備費］	(10,250,000) 0	－	0
資金支出調整勘定	△112,514,882	△136,975,231	24,460,349
資金支出　小計　②	**4,895,332,679**	**4,807,733,662**	**87,599,017**
翌年度繰越支払資金	1,795,890,371	1,822,229,026	△26,338,655
支出の部　合計	**6,691,223,050**	**6,629,962,688**	**61,260,362**

資金収支差額　（①－②）	**△227,937,260**	**△201,598,605**	**△26,338,655**

※活動区分資金収支計算書（平成 30 年 4 月1日～平成 31 年 3 月 31 日）

（金額単位：円）

		科　　目	金　　額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	2,472,199,792
		手数料収入	41,174,120
		特別寄付金収入	44,985,983
		一般寄付金収入	17,247,547
		経常費等補助金収入	1,442,068,693
		付随事業収入	101,499,628
		雑収入	243,558,458
		教育活動資金収入計	4,362,734,221
	支出	人件費支出	2,911,356,882
		教育研究経費支出	807,001,187
		管理経費支出	214,363,975
		教育活動資金支出計	3,932,722,044
	差引		430,012,177
	調整勘定等		△128,446,133
	教育活動資金収支差額		301,566,044
		科　　目	金　　額
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	9,483,171
		施設設備補助金収入	82,313,000
		第２号基本金引当特定資産取崩収入	50,000,000
		減価償却引当特定資産取崩収入	230,000,000
		施設整備等活動資金収入計	371,796,171
	支出	施設関係支出	629,055,230
		設備関係支出	110,602,085
		設備資金引当特定資産繰入支出	15,000,000
		減価償却引当特定資産繰入支出	45,000,000
		施設整備等活動資金支出計	799,657,315
	差引		△427,861,144
	調整勘定等		△43,957,295
	施設整備等活動資金収支差額		△471,818,439
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			△170,252,395
		科　　目	金　　額
その他の活動による資金収支	収入	受取利息・配当金収入	2,157,464
		預り金収入	18,305,557
		修学旅行積立預金収入	47,384,591
		その他の活動資金収入計	67,847,612
	支出	借入金等返済支出	59,627,486
		小計	59,627,486
		借入金等利息支出	1,320,212
		過年度修正支出	296,178
		立替金支出	45,380
		仮払金支出	345,000
		修学旅行積立預金支出	41,875,567
		修学旅行積立預り金支出	5,509,024
		敷金支出	59,000
		その他の活動資金支出計	109,077,847
	差引		△41,230,235
	調整勘定等		9,884,025
	その他の活動資金収支差額		△31,346,210
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			△201,598,605
前年度繰越支払資金			2,023,827,631
翌年度繰越支払資金			1,822,229,026

2)事業活動収支計算書（平成 30 年 4 月1日～平成 31 年 3 月 31 日）

（金額単位：円）

科目			予算（A）	決算（B）	差異 (A) - (B)
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	2,471,904,816	2,472,199,792	△294,976
		手数料	43,531,188	41,174,120	2,357,068
		寄付金	54,908,900	62,233,530	△7,324,630
		経常費等補助金	1,473,468,780	1,442,068,693	31,400,087
		国庫補助金	187,453,000	167,312,000	20,141,000
		地方公共団体補助金	1,286,015,780	1,274,756,693	11,259,087
		付随事業収入	89,173,394	102,196,453	△13,023,059
		雑収入	160,164,603	243,571,458	△83,406,855
		教育活動収入計	4,293,151,681	4,363,444,046	△70,292,365
	支出の部	人件費	2,846,272,422	2,906,748,513	△60,476,091
		教育研究経費	1,176,031,079	1,108,279,161	67,751,918
		管理経費	279,596,565	259,618,206	19,978,359
		徴収不能額等	39,000	3,292,000	△3,253,000
		教育活動支出計	4,301,939,066	4,277,937,880	24,001,186
	教育活動収支差額		**△8,787,385**	**85,506,166**	**△94,293,551**
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	2,220,611	2,157,464	63,147
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	2,220,611	2,157,464	63,147
	支出の部	借入金等利息	1,320,212	1,320,212	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	1,320,212	1,320,212	0
	教育活動外収支差額		**900,399**	**837,252**	**63,147**
経常収支差額			**△7,886,986**	**86,343,418**	**△94,230,404**
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	90,448,000	91,870,015	△1,422,015
		特別収入計	90,448,000	91,870,015	△1,422,015
	支出の部	資産処分差額	53,853,144	55,358,469	△1,505,325
		その他の特別支出	22,558,178	22,558,178	0
		特別支出計	76,411,322	77,916,647	△1,505,325
	特別収支差額		**14,036,678**	**13,953,368**	**83,310**
〔予備費〕			(10,250,000) 0	－	0
基本金組入前当年度収支差額			**6,149,692**	**100,296,786**	**△94,147,094**
基本金組入額合計			△588,281,356	△519,828,659	△68,452,697
当年度収支差額			**△582,131,664**	**△419,531,873**	**△162,599,791**
前年度繰越収支差額			△5,145,041,278	△5,145,041,278	0
基本金取崩額			50,000,000	50,000,000	0
翌年度繰越収支差額			△5,677,172,942	△5,514,573,151	△162,599,791

3）貸借対照表（平成 31 年 3 月 31 日現在）

（金額単位：円）

科　　目	本年度末　（A）	前年度末　（B）	増　減　（A）-（B）
固　定　資　産	**13,684,517,266**	**13,569,681,319**	**114,835,947**
有形固定資産	12,576,124,185	12,235,985,733	340,138,452
土　　地	2,623,016,080	2,372,352,196	250,663,884
建　　物	8,092,729,569	7,802,588,868	290,140,701
構　築　物	432,673,316	400,957,089	31,716,227
教育研究用機器備品	580,444,976	563,342,149	17,102,827
管理用機器備品	34,231,705	37,898,250	△3,666,545
図　　書	748,072,999	738,135,297	9,937,702
車　　両	64,955,540	58,948,531	6,007,009
建設仮勘定	0	261,763,353	△261,763,353
特定資産	1,092,000,000	1,312,000,000	△220,000,000
その他の固定資産	16,393,081	21,695,586	△5,302,505
流　動　資　産	**2,197,621,561**	**2,264,690,242**	**△67,068,681**
現　預　金	1,822,229,026	2,023,827,631	△201,598,605
その他の流動資産	375,392,535	240,862,611	134,529,924
資産の部　合計	**15,882,138,827**	**15,834,371,561**	**47,767,266**
固　定　負　債	**1,769,280,755**	**1,780,478,610**	**△11,197,855**
長期借入金	1,264,440,000	1,317,593,538	△53,153,538
長期未払金	76,089,996	51,787,944	24,302,052
退職給与引当金	428,750,759	411,097,128	17,653,631
流　動　負　債	**615,567,228**	**656,898,893**	**△41,331,665**
短期借入金	53,153,538	59,627,486	△6,473,948
前　受　金	323,473,052	383,758,737	△60,285,685
その他の流動負債	238,940,638	213,512,670	25,427,968
負債の部　合計	**2,384,847,983**	**2,437,377,503**	**△52,529,520**
基　本　金	**19,011,863,995**	**18,542,035,336**	**469,828,659**
第１号基本金	18,528,863,995	18,023,035,336	505,828,659
第２号基本金	0	50,000,000	△50,000,000
第３号基本金	200,000,000	200,000,000	0
第４号基本金	283,000,000	269,000,000	14,000,000
繰越収支差額	**△5,514,573,151**	**△5,145,041,278**	**△369,531,873**
翌年度繰越収支差額	△5,514,573,151	△5,145,041,278	△369,531,873
純資産の部 合計	**13,497,290,844**	**13,396,994,058**	**100,296,786**
負債及び純資産の部　合計	**15,882,138,827**	**15,834,371,561**	**47,767,266**

◇正味財産額　13,497,290,844 円　(前年度比 +100,296,786 円)　(参)前年度　13,396,994,058 円

※正味財産額=純資産の部合計（基本金＋繰越収支差額）

【参考】 学校法人会計基準について

学校法人は、一般事業法人と異なり、利益の稼得を目的にした組織ではありません。学生生徒や社会に対して、教育研究活動を通した人材育成という崇高な使命を負った社会性、公共性の高い存在です。しかしながら、「経営」という視点を欠き、過分な設備投資や場当たり的な運営を続けていると、収入と支出のバランスを失い、経営基盤の不健全化を招き、場合によっては、存続すら危うくなってしまいます。

こういった事態を防ぐために、経営の実態を会計面から適時、的確に把握できるよう、一定の会計処理ルールが定められています。それが、昭和 46 年に文部省令第 18 号として制定された「学校法人会計基準」です。国または地方公共団体から補助金の交付を受けている学校法人は、私立学校振興助成法第 14 条に基づき、「文部科学大臣の定める基準に従い、会計処理を行い、貸借対照表、収支計算書その他の財務計算に関する書類を作成しなければならない」とされています。

なお、学校法人会計基準の一部を改正する省令（平成 25 年 4 月 22 日文部科学省令第 15 号）が平成 27 年 4 月 1 日に施行され、平成 27 年度以降の予算・決算に適用されています。

以下は、「新・学校法人会計基準」に関する解説です。

1）計算書類について

資金収支計算書

当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を表すとともに、当該会計年度の支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金)の収入及び支出の顛末を表します。

活動区分資金収支計算書

資金収支計算書の決算額を 3 つの活動、すなわち、「教育活動」、「施設整備等活動」、「その他の活動」に区分し、活動区分ごとの資金収支を明らかにします。この計算書は、会計基準改正に伴い平成 27 年度から作成が義務付けられましたが、様式の特性から、決算時のみ所轄庁へ提出することになっています。

事業活動収支計算書

当該会計年度の事業活動収入（学校の負債とならない収入）及び事業活動支出（現預金の支出を伴わない減価償却額や退職給与引当金繰入額などを含む）の内容を表すとともに、基本金組入前及び基本金組入後の収支均衡状態を明らかにします。会計基準の改正の伴い「区分経理」が導入され、収支を経常的収支と臨時的収支に、経常的収支を教育活動収支と教育活動外収支に分けて表示することになりました。

【基本金について】

基本金とは、学校法人会計基準第 29 条において、「学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その事業活動収入のうちから組み入れた金額を基本金とする。」と規定されており、次の第1号から第4号に該当するものです。なお、「その諸活動の計画に基づき必要な資産」とは、教育研究活動に必要な校地、校舎、機器備品、図書等のことで、すべて自己資金による取得が基本金の条件となっています。

第1号基本金 ： 学校法人が教育研究活動に供するために自己資金により取得した土地、建物、設備等の固定資産の価額

第2号基本金 ： 新たな学校・学部の設立や施設設備等の規模拡充に伴う将来の固定資産取得に備えた資金の先行組入額

第3号基本金 ： 奨学基金や研究基金等の積立額。その運用果実により教育研究活動を支援するための資金

第4号基本金 ： 恒常的に保持すべき資金として、学校法人会計基準により定められた金額

貸借対照表

一定時点(本学は3月末現在)の資産・負債・純資産（基本金と繰越収支差額の合計）の内容及び在り高を明示し、財産の状態を表します。

2）勘定科目について

計算書類で使用する勘定科目とその内容は次の通りです。

①資金収支計算書の勘定科目

勘定科目		内容
収入の部	学生生徒等納付金収入	教育研究活動の提供の対価として学生・生徒等から徴収する納付金収入
	手数料収入	入学試験及び在学証明、成績証明等を発行する際に徴収する収入
	寄付金収入	金銭その他の資産を寄贈者から贈与されたもので、用途指定がある寄付金を「特別寄付金収入」、用途指定がない寄付金を「一般寄付金収入」として計上する。
	補助金収入	国や地方公共団体などから交付される補助金収入
	資産売却収入	学校法人が保有する固定資産を売却した際の収入で、実際の売却額を計上する。
	付随事業・収益事業収入	食堂・売店・学生寮等、教育活動に付随する活動に係る事業の収入のほか、外部から委託を受けた研究等による収入や収益事業会計からの繰入収入
	受取利息・配当金収入	第 3 号基本金引当特定資産の運用による収入のほか、預金や貸付金等の利息、株式の配当金等による収入
	雑収入	施設設備利用料収入、廃品売却収入、退職金財団等交付金収入その他学校法人の負債とならない上記の各収入以外の収入
	借入金等収入	日本私立学校振興・共済事業団や銀行等、金融機関からの借入による収入
	前受金収入	翌年度分の授業料・入学金等が当年度に納入された収入で、主に新入生の入学手続きが入学年度の前の年度中に行われるため、前受金収入として計上する。
	その他の収入	各種特定資産からの繰入収入や前期末未収入金収入、預り金収入、立替金収入、仮払金収入など、上記の各収入以外の収入
	資金収入調整勘定	当年度の諸活動に対応する収入だが、実際の資金の収入が前年度以前または翌年度以降のもので、前期末前受金と期末未収入金としてそれぞれ計上する。
前年度繰越支払資金		前年度から繰り越された現預金の残高
収入の部　合計		―
支出の部	人件費支出	教職員に対する本俸、期末手当、その他の手当、所定福利費、退職金財団等掛金、退職金及び役員に支払う報酬
	教育研究経費支出	学校法人の主たる目的である教育研究活動や学生生徒等の学習支援などのために支出する経費で、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、奨学費、通信運搬費、印刷費、施設設備修理費、賃借料、報酬・委託・手数料などがある。
	管理経費支出	学校法人の管理運営のために支出する経費で、役員の行う業務執行のために要する経費や、総務・人事・財務その他法人業務に要する経費、教職員の福利厚生のための経費、教育研究活動以外に使用する施設設備の修繕・維持・保全に要する経費、学生生徒等の募集のために要する経費などがある。
	借入金等利息支出	借入金等の利息に係る支出
	借入金等返済支出	借入金等の元金の返済に係る支出
	施設関係支出	土地・建物・構築物等の取得に係る支出
	設備関係支出	機器備品や図書、車両、ソフトウェア(資産計上されるもの)等の取得に係る支出
	資産運用支出	運用目的で有価証券を購入した場合や各種特定資産に繰り入れる際に計上する。
	その他の支出	前期末未払金の支払支出や預り金、立替金、仮払金など、上記以外の支出
	［予備費］	予算化されていない突発的な事象に対応するために計上する額
	資金支出調整勘定	当年度の諸活動に対応する支出だが、実際の資金の支出が前年度以前または翌年度以降のもので、前期末前払金と期末未払金としてそれぞれ計上する。

翌年度繰越支払資金	翌年度へ繰り越される現預金の残高
支出の部　合計	―

②事業活動収支計算書の勘定科目

勘定科目名		内　　容
教育活動収支	学生生徒等納付金	①資金収支計算書と同じ
	手数料	①資金収支計算書と同じ
	寄付金	①に加え、金銭以外の資産で寄付を受けた場合、その取得のために通常要する価格をもって「現物寄付金」として計上する（施設設備に係る寄付金・現物寄付は除く。）現物寄付は支払資金の増加がないため、①には記載されない。
	経常費等補助金	施設設備補助金以外の補助金
	付随事業収入	食堂、売店、学生寮等、教育活動等に付随する活動に係る収入や外部から委託を受けた研究等による収入
	雑収入	①資金収支計算書と同じ
	教育活動収入計	―
	人件費	①の人件費支出から退職金支出を除き、退職給与引当金繰入額を加えた額。なお、退職給与引当金への繰入れが不足していた場合には、当該会計年度における退職金支払額と退職給与引当金計上額との差額を退職金として計上する。
	教育研究経費	①に教育研究用減価償却資産に係る当該会計年度分の減価償却額を加えた額
	管理経費	①に管理用減価償却資産に係る当該会計年度分の減価償却額を加えた額
	徴収不能額等	未収入金について、将来徴収不能となるおそれのある場合は、当該徴収不能の見込み額を一定の方法に拠って見積もり、徴収不能引当金に繰入れる。また、未収入金について、徴収不能と判断した場合は、徴収不能額として計上する。
	教育活動支出計	―
	教育活動収支差額	経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支状況を表す。教育活動外の収支は含まれないため、経常収支差額よりも明確に本業である教育活動の収支バランスを判断する指標となる。
教育活動外収支	受取利息・配当金	①資金収支計算書と同じ
	その他の教育活動外収入	収益事業会計からの繰入収入
	教育活動外収入計	―
	借入金等利息	①資金収支計算書と同じ
	その他の教育活動外支出	為替換算差額などの支出
	教育活動外支出計	―
	教育活動外収支差額	経常的な収支のうち、財務活動による収支状況を表す。
経常収支差額		教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計。経常的な事業活動による収入とコストの収支バランスを表す。特別収支を除いた収支差額であるため、経常的な事業活動が安定的であるか否かを判断する指標となる。
特別収支	資産売却差額	資産売却収入が当該資産の帳簿残高を超える場合に、その超過額を計上する。
	その他の特別収入	施設設備拡充等のための寄付金、施設設備の受贈額、施設設備拡充等のための補助金、及び過年度修正額などによる収入
	特別収入計	―
	資産処分差額	資産の帳簿残高が当該資産の売却収入金額を超える場合に、その超過額を計上する。
	その他の特別支出	災害損失や過年度修正額などによる支出

	特別支出計	―
	特別収支差額	資産売却・処分、施設設備寄付金、施設設備補助金などの臨時的な収支を表す。
［予　備　費］		①資金収支計算書と同じ
基本金組入前当年度収支差額		事業活動収入から事業活動支出を差し引いた額。学校法人に基本金を組み入れる余力がどの程度あるのかを判断する指標。単年度における事業活動全体の収支バランス（従前の「帰属収支差額」）を把握するため、会計基準の改正の伴い、新たに表示されることになった。
基本金組入額合計		第1号から第4号までの基本金組入額の合計。学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額。
当年度収支差額		長期の収支バランスを表す(従前の「○年度消費収入(支出)超過額」)。
前年度繰越収支差額		
翌年度繰越収支差額		

（参考）

事業活動収入計	従前の「消費収支計算書」における帰属収入に当たり、借入金収入や前受金収入などの負債となる収入を除いた学校法人における正味の収入を表す。
事業活動支出計	従前の「消費収支計算書」における消費支出に当たり、資金支出を伴わない減価償却費や各種引当金、資産処分差額等が含まれ、学校法人の正味の費用を表す。

③貸借対照表の勘定科目

勘定科目名	内　　容
有形固定資産	土地・建物・構築物・機器備品・図書・車両・建設仮勘定等
特定資産	使途が特定された預金等をいう。会計基準の改正に伴い、「第２号基本金」に対応する資産として「第２号基本金引当特定資産」が新設された。
その他の固定資産	ソフトウェア、長期に保有する有価証券、長期未収入金など
流動資産	現金預金、未収入金、一時的に保有する有価証券、立替金、仮払金、前払金など
資産の部合計	―
固定負債	長期借入金、長期未払金、退職給与引当金など
流動負債	短期借入金、未払金、前受金、預り金、仮受金など
負債の部合計	―
基本金	第１号から第４号基本金(※既述)
繰越収支差額	事業活動収支差額の累積額
純資産の部合計	会計基準の改正に伴い、基本金と繰越収支差額の合計を表す「純資産の部合計」が新設された。
負債及び純資産の部合計	―

学校
法人 聖カタリナ学園

平成30年度事業報告書
学校法人聖カタリナ学園・法人本部事務局

資　金　収　支　計　算　書

平成３０年４月　１日から
平成３１年３月３１日まで

（単位:円）

収入の部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
学生生徒等納付金収入	**2,471,904,816**	**2,472,199,792**	**△ 294,976**
授業料収入	1,646,903,168	1,646,921,794	△ 18,626
入学金収入	196,315,000	196,770,000	△ 455,000
実験実習料収入	59,572,548	59,413,298	159,250
施設設備費収入	203,770,000	203,730,100	39,900
教育充実費収入	350,681,200	350,675,200	6,000
学園維持費収入	14,662,900	14,689,400	△ 26,500
手数料収入	**43,531,188**	**41,174,120**	**2,357,068**
入学検定料収入	42,170,000	39,315,000	2,855,000
試験料収入	755,000	1,159,380	△ 404,380
証明手数料収入	386,000	431,700	△ 45,700
その他の手数料収入	220,188	268,040	△ 47,852
寄付金収入	**63,857,900**	**71,716,701**	**△ 7,858,801**
特別寄付金収入	54,032,900	54,469,154	△ 436,254
一般寄付金収入	9,825,000	17,247,547	△ 7,422,547
補助金収入	**1,554,055,780**	**1,524,381,693**	**29,674,087**
国庫補助金収入	258,083,000	218,781,000	39,302,000
地方公共団体補助金収入	1,295,972,780	1,305,600,693	△ 9,627,913
資産売却収入	**0**	**0**	**0**
付随事業・収益事業収入	**89,173,394**	**101,499,628**	**△ 12,326,234**
補助活動収入	85,179,394	98,526,491	△ 13,347,097
受託事業収入	1,720,000	1,843,137	△ 123,137
公開講座収入	2,274,000	1,130,000	1,144,000
受取利息・配当金収入	**2,220,611**	**2,157,464**	**63,147**
第３号基本金引当特定資産運用収入	288,568	283,669	4,899
その他の受取利息・配当金収入	1,932,043	1,873,795	58,248
雑収入	**160,164,603**	**243,558,458**	**△ 83,393,855**
施設設備利用料収入	9,662,010	8,781,305	880,705
廃品売却収入	20,000	25,553	△ 5,553
退職金財団等交付金収入	128,015,281	203,628,539	△ 75,613,258
還付消費税収入	1,350,400	3,967,058	△ 2,616,658
２歳児子育て支援事業収入	0	1,139,000	△ 1,139,000
その他の雑収入	21,116,912	26,017,003	△ 4,900,091
借入金等収入	**0**	**0**	**0**
前受金収入	**397,221,500**	**323,473,052**	**73,748,448**
授業料前受金収入	118,491,500	92,481,500	26,010,000
入学金前受金収入	174,225,000	153,501,000	20,724,000
実験実習料前受金収入	2,840,000	2,361,500	478,500
施設設備費前受金収入	52,110,000	36,150,000	15,960,000
教育充実費前受金収入	38,735,000	31,165,000	7,570,000
学園維持費前受金収入	0	43,200	△ 43,200
その他の前受金収入	10,820,000	7,770,852	3,049,148
その他の収入	**526,467,901**	**536,207,784**	**△ 9,739,883**
第２号基本金引当特定資産取崩収入	50,000,000	50,000,000	0
減価償却引当特定資産取崩収入	230,000,000	230,000,000	0
前期末未収入金収入	190,929,428	190,517,636	411,792
預り金収入	8,519,273	18,305,557	△ 9,786,284
修学旅行費積立預金収入	47,019,200	47,384,591	△ 365,391
資金収入調整勘定	**△ 641,202,274**	**△ 710,233,635**	**69,031,361**
期末未収入金	△ 257,443,537	△ 326,474,898	69,031,361
前期末前受金	△ 383,758,737	△ 383,758,737	0
前年度繰越支払資金	2,023,827,631	2,023,827,631	
収入の部合計	**6,691,223,050**	**6,629,962,688**	**61,260,362**

（単位:円）

支出の部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
人件費支出	**2,847,209,585**	**2,911,356,882**	**△64,147,297**
教員人件費支出	2,196,549,248	2,193,532,845	3,016,403
職員人件費支出	507,242,396	505,128,053	2,114,343
役員報酬支出	8,675,000	8,675,000	0
退職金支出	134,742,941	204,020,984	△ 69,278,043
教育研究経費支出	**873,918,915**	**807,001,187**	**66,917,728**
消耗品費支出	75,234,018	67,230,893	8,003,125
光熱水費支出	87,209,070	80,271,500	6,937,570
旅費交通費支出	35,823,882	29,757,022	6,066,860
車両燃料費支出	2,006,199	1,861,170	145,029
奨学費支出	279,268,450	278,173,750	1,094,700
教育実習諸経費支出	17,045,462	16,816,763	228,699
生徒福利費支出	32,467,689	30,510,173	1,957,516
通信運搬費支出	16,701,606	16,631,243	70,363
印刷費支出	10,927,211	8,834,422	2,092,789
施設設備修理費支出	87,250,188	58,810,005	28,440,183
衛生清掃費支出	13,533,980	13,533,980	0
損害保険料支出	9,631,793	9,571,098	60,695
賃借料支出	20,762,652	19,123,127	1,639,525
公租公課支出	1,556,480	1,312,006	244,474
諸会費支出	12,726,866	11,661,357	1,065,509
会議費支出	354,500	91,213	263,287
報酬・委託・手数料支出	136,707,925	136,707,925	0
行事費支出	2,100,000	1,972,479	127,521
研究旅費支出	13,300,000	8,488,949	4,811,051
研究経費支出	18,700,000	15,418,075	3,281,925
雑費支出	610,944	224,037	386,907
管理経費支出	**234,581,265**	**214,660,153**	**19,921,112**
消耗品費支出	9,691,299	8,229,482	1,461,817
光熱水費支出	10,971,441	9,438,237	1,533,204
旅費交通費支出	17,911,064	17,911,064	0
車両燃料費支出	214,308	214,308	0
福利厚生費支出	8,255,019	7,331,118	923,901
通信運搬費支出	7,441,194	6,582,446	858,748
印刷費支出	22,811,684	21,901,132	910,552
施設設備修理費支出	11,976,755	5,376,026	6,600,729
衛生清掃費支出	1,731,872	1,596,766	135,106
損害保険料支出	1,113,128	709,214	403,914
賃借料支出	13,543,705	12,665,201	878,504
公租公課支出	4,684,300	4,283,983	400,317
広告費支出	32,621,356	30,857,914	1,763,442
諸会費支出	5,995,402	5,995,402	0
会議費支出	3,341	3,341	0
交際費支出	10,517,659	8,811,174	1,706,485
報酬・委託・手数料支出	72,712,400	70,458,227	2,254,173
私立大学等経常費補助金返還金支出	550,000	550,000	0
雑費支出	1,539,160	1,448,940	90,220
過年度修正支出	296,178	296,178	0
借入金等利息支出	**1,320,212**	**1,320,212**	**0**
借入金利息支出	1,320,212	1,320,212	0
借入金等返済支出	**59,627,486**	**59,627,486**	**0**
借入金返済支出	59,627,486	59,627,486	0
施設関係支出	**664,503,099**	**629,055,230**	**35,447,869**
土地支出	186,719,704	186,042,867	676,837
建物支出	383,585,027	378,944,220	4,640,807
構築物支出	94,068,768	63,938,543	30,130,225
施設利用権支出	129,600	129,600	0
設備関係支出	**123,310,598**	**110,602,085**	**12,708,513**
教育研究用機器備品支出	86,846,546	79,121,313	7,725,233
管理用機器備品支出	5,595,840	1,877,168	3,718,672
図書支出	12,643,428	11,378,820	1,264,608
車両支出	18,116,784	18,116,784	0
ソフトウェア支出	108,000	108,000	0

（単位:円）

科　　目	予　算	決　算	差　異
資産運用支出	**60,000,000**	**60,000,000**	**0**
設備資金引当特定資産繰入支出	15,000,000	15,000,000	0
減価償却引当特定資産繰入支出	45,000,000	45,000,000	0
その他の支出	**143,376,401**	**151,085,658**	**△7,709,257**
前期末未払金支払支出	95,703,276	95,703,276	0
前払金支払支出	36,000	7,548,411	△7,512,411
立替金支出	558,925	45,380	513,545
仮払金支出	0	345,000	△345,000
修学旅行費積立預金支出	41,893,558	41,875,567	17,991
修学旅行費積立預り金支出	5,125,642	5,509,024	△383,382
敷金支出	59,000	59,000	0
〔予備費〕	(10,250,000) 0		0
資金支出調整勘定	**△112,514,882**	**△136,975,231**	**24,460,349**
期末未払金	△108,176,414	△132,636,763	24,460,349
前期末前払金	△4,338,468	△4,338,468	0
翌年度繰越支払資金	1,795,890,371	1,822,229,026	△26,338,655
支出の部合計	**6,691,223,050**	**6,629,962,688**	**61,260,362**

注　記

予備費の使用額の内訳は、下記のとおりである。

人件費支出	(6,758,264)
役員報酬支出	201,604
退職金支出	6,556,660
教育研究経費支出	(2,853,678)
衛生清掃費支出	370,245
報酬・委託・手数料支出	2,483,433
管理経費支出	(508,458)
旅費交通費支出	478,513
車両燃料費支出	18,114
諸会費支出	8,490
会議費支出	3,341
施設関係支出	(129,600)
施設利用権支出	129,600
合　　計	(10,250,000)

活　動　区　分　資　金　収　支　計　算　書

平成３０年４月　１日から

平成３１年３月３１日まで

（単位:円）

		科　　目	金　　額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	2,472,199,792
		手数料収入	41,174,120
		特別寄付金収入	44,985,983
		一般寄付金収入	17,247,547
		経常費等補助金収入	1,442,068,693
		付随事業収入	101,499,628
		雑収入	243,558,458
		教育活動資金収入計	4,362,734,221
	支出	人件費支出	2,911,356,882
		教育研究経費支出	807,001,187
		管理経費支出	214,363,975
		教育活動資金支出計	3,932,722,044
	差引		430,012,177
	調整勘定等		△128,446,133
	教育活動資金収支差額		301,566,044
施設整備等活動による資金収支		科　　目	金　　額
	収入	施設設備寄付金収入	9,483,171
		施設設備補助金収入	82,313,000
		第２号基本金引当特定資産取崩収入	50,000,000
		減価償却引当特定資産取崩収入	230,000,000
		施設整備等活動資金収入計	371,796,171
	支出	施設関係支出	629,055,230
		設備関係支出	110,602,085
		設備資金引当特定資産繰入支出	15,000,000
		減価償却引当特定資産繰入支出	45,000,000
		施設整備等活動資金支出計	799,657,315
	差引		△427,861,144
	調整勘定等		△43,957,295
	施設整備等活動資金収支差額		△471,818,439
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			△170,252,395
その他の活動による資金収支		科　　目	金　　額
	収入	受取利息・配当金収入	2,157,464
		預り金収入	18,305,557
		修学旅行積立預金収入	47,384,591
		その他の活動資金収入計	67,847,612
	支出	借入金等返済支出	59,627,486
		小計	59,627,486
		借入金等利息支出	1,320,212
		過年度修正支出	296,178
		立替金支出	45,380
		仮払金支出	345,000
		修学旅行積立預金支出	41,875,567
		修学旅行積立預り金支出	5,509,024
		敷金支出	59,000
		その他の活動資金支出計	109,077,847
	差引		△41,230,235
	調整勘定等		9,884,025
	その他の活動資金収支差額		△31,346,210
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			△201,598,605
前年度繰越支払資金			2,023,827,631
翌年度繰越支払資金			1,822,229,026

注　記

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおりである。

（単位:円）

	資金収支 計算書計上額	教育活動 による資金収支	施設整備等活動 による資金収支	その他の活動 による資金収支
前受金収入	323,473,052	323,473,052	0	0
前期末未収入金収入	190,517,636	180,072,150	1,088,000	9,357,486
期末未収入金	△326,474,898	△244,161,898	△82,313,000	0
前期末前受金	△383,758,737	△383,758,737	0	0
収入計	△196,242,947	△124,375,433	△81,225,000	9,357,486
前期末未払金支払支出	95,703,276	76,570,897	19,132,379	0
前払金支払支出	7,548,411	7,548,411	0	0
期末未払金	△132,636,763	△76,236,031	△56,400,084	△648
前期末前払金	△4,338,468	△3,812,577	0	△525,891
支出計	△33,723,544	4,070,700	△37,267,705	△526,539
収入計　-　支出計	△162,519,403	△128,446,133	△43,957,295	9,884,025

事 業 活 動 収 支 計 算 書

平成３０年４月　１日から
平成３１年３月３１日まで

（単位:円）

		科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
教育活動収支	事業活動収入の部	**学生生徒等納付金**	**2,471,904,816**	**2,472,199,792**	**△ 294,976**
		授業料	1,646,903,168	1,646,921,794	△ 18,626
		入学金	196,315,000	196,770,000	△ 455,000
		実験実習料	59,572,548	59,413,298	159,250
		施設設備費	203,770,000	203,730,100	39,900
		教育充実費	350,681,200	350,675,200	6,000
		学園維持費	14,662,900	14,689,400	△ 26,500
		手数料	**43,531,188**	**41,174,120**	**2,357,068**
		入学検定料	42,170,000	39,315,000	2,855,000
		試験料	755,000	1,159,380	△ 404,380
		証明手数料	386,000	431,700	△ 45,700
		その他の手数料	220,188	268,040	△ 47,852
		寄付金	**54,908,900**	**62,233,530**	**△ 7,324,630**
		特別寄付金	45,083,900	44,985,983	97,917
		一般寄付金	9,825,000	17,247,547	△ 7,422,547
		経常費等補助金	**1,473,468,780**	**1,442,068,693**	**31,400,087**
		国庫補助金	187,453,000	167,312,000	20,141,000
		地方公共団体補助金	1,286,015,780	1,274,756,693	11,259,087
		付随事業収入	**89,173,394**	**102,196,453**	**△ 13,023,059**
		補助活動収入	85,179,394	99,223,316	△ 14,043,922
		受託事業収入	1,720,000	1,843,137	△ 123,137
		公開講座収入	2,274,000	1,130,000	1,144,000
		雑収入	**160,164,603**	**243,571,458**	**△ 83,406,855**
		施設設備利用料	9,662,010	8,781,305	880,705
		廃品売却収入	20,000	25,553	△ 5,553
		退職金財団等交付金	128,015,281	203,628,539	△ 75,613,258
		還付消費税	1,350,400	3,967,058	△ 2,616,658
		２歳児子育て支援事業収入	0	1,139,000	△ 1,139,000
		その他の雑収入	21,116,912	26,017,003	△ 4,900,091
		徴収不能引当金戻入額	0	13,000	△ 13,000
		教育活動収入計	**4,293,151,681**	**4,363,444,046**	**△ 70,292,365**
	事業活動支出の部	科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
		人件費	**2,846,272,422**	**2,906,748,513**	**△ 60,476,091**
		教員人件費	2,196,549,248	2,193,532,845	3,016,403
		職員人件費	507,242,396	505,128,053	2,114,343
		役員報酬	8,675,000	8,675,000	0
		退職給与引当金繰入額	90,027,437	105,992,831	△ 15,965,394
		退職金	43,778,341	93,419,784	△ 49,641,443
		教育研究経費	**1,176,031,079**	**1,108,279,161**	**67,751,918**
		消耗品費	75,234,018	67,230,893	8,003,125
		光熱水費	87,209,070	80,271,500	6,937,570
		旅費交通費	35,823,882	29,757,022	6,066,860
		車両燃料費	2,006,199	1,861,170	145,029
		奨学費	279,268,450	278,173,750	1,094,700
		教育実習諸経費	17,045,462	16,816,763	228,699
		生徒福利費	32,467,689	30,510,173	1,957,516
		通信運搬費	16,701,606	16,631,243	70,363
		印刷費	10,927,211	8,834,422	2,092,789
		施設設備修理費	87,250,188	58,810,005	28,440,183
		衛生清掃費	13,533,980	13,533,980	0
		損害保険料	9,631,793	9,571,098	60,695
		賃借料	20,762,652	19,123,127	1,639,525
		公租公課	1,556,480	1,312,006	244,474
		諸会費	12,726,866	11,661,357	1,065,509
		会議費	354,500	91,213	263,287
		報酬・委託・手数料	136,707,925	136,707,925	0
		行事費	2,100,000	1,972,479	127,521
		研究旅費	13,300,000	8,488,949	4,811,051
		研究経費	18,700,000	15,418,075	3,281,925
		雑費	610,944	224,037	386,907
		減価償却額	302,112,164	301,277,974	834,190

（単位:円）

		科　　目	予　算	決　算	差　異
教育活動収支	事業活動支出の部	**管理経費**	**279,596,565**	**259,618,206**	**19,978,359**
		消耗品費	9,691,299	8,229,482	1,461,817
		光熱水費	10,971,441	9,438,237	1,533,204
		旅費交通費	17,911,064	17,911,064	0
		車両燃料費	214,308	214,308	0
		福利厚生費	8,255,019	7,331,118	923,901
		通信運搬費	7,441,194	6,582,446	858,748
		印刷費	22,811,684	21,901,132	910,552
		施設設備修理費	11,976,755	5,376,026	6,600,729
		衛生清掃費	1,731,872	1,596,766	135,106
		損害保険料	1,113,128	709,214	403,914
		賃借料	13,543,705	12,665,201	878,504
		公租公課	4,684,300	4,283,983	400,317
		広告費	32,621,356	30,857,914	1,763,442
		諸会費	5,995,402	5,995,402	0
		会議費	3,341	3,341	0
		交際費	10,517,659	8,811,174	1,706,485
		報酬・委託・手数料	72,712,400	70,458,227	2,254,173
		私立大学等経常費補助金返還金	550,000	550,000	0
		雑費	1,539,160	1,448,940	90,220
		減価償却額	45,311,478	45,254,231	57,247
		徴収不能額等	**39,000**	**3,292,000**	**△ 3,253,000**
		徴収不能引当金繰入額	0	2,872,500	△ 2,872,500
		徴収不能額	39,000	419,500	△ 380,500
		教育活動支出計	**4,301,939,066**	**4,277,937,880**	**24,001,186**
		教育活動収支差額	**△ 8,787,385**	**85,506,166**	**△ 94,293,551**
教育活動外収支	事業活動収入の部	科　　目	予　算	決　算	差　異
		受取利息・配当金	**2,220,611**	**2,157,464**	**63,147**
		第３号基本金引当特定資産運用収入	288,568	283,669	4,899
		その他の受取利息・配当金	1,932,043	1,873,795	58,248
		その他の教育活動外収入	**0**	**0**	**0**
		教育活動外収入計	**2,220,611**	**2,157,464**	**63,147**
	事業活動支出の部	科　　目	予　算	決　算	差　異
		借入金等利息	**1,320,212**	**1,320,212**	**0**
		借入金利息	1,320,212	1,320,212	0
		その他の教育活動外支出	**0**	**0**	**0**
		教育活動外支出計	**1,320,212**	**1,320,212**	**0**
		教育活動外収支差額	**900,399**	**837,252**	**63,147**
経常収支差額			**△ 7,886,986**	**86,343,418**	**△ 94,230,404**
特別収支	事業活動収入の部	科　　目	予　算	決　算	差　異
		資産売却差額	**0**	**0**	**0**
		その他の特別収入	**90,448,000**	**91,870,015**	**△ 1,422,015**
		施設設備寄付金	8,949,000	9,483,171	△ 534,171
		現物寄付	912,000	73,844	838,156
		施設設備補助金	80,587,000	82,313,000	△ 1,726,000
		特別収入計	**90,448,000**	**91,870,015**	**△ 1,422,015**
	事業活動支出の部	科　　目	予　算	決　算	差　異
		資産 処分 差額	**53,853,144**	**55,358,469**	**△ 1,505,325**
		施設処分差額	46,504,554	48,792,766	△ 2,288,212
		設備処分差額	7,348,590	6,565,703	782,887
		その他の特別支出	**22,558,178**	**22,558,178**	**0**
		過年度修正額	296,178	296,178	0
		退職給与引当金特別繰入額	22,262,000	22,262,000	0
		特別支出計	**76,411,322**	**77,916,647**	**△ 1,505,325**
		特別収支差額	**14,036,678**	**13,953,368**	**83,310**
〔予備費〕			(10,250,000) 0		0
基本金組入前当年度収支差額			**6,149,692**	**100,296,786**	**△ 94,147,094**
基本金組入額合計			**△ 588,281,356**	**△ 519,828,659**	**△ 68,452,697**
当年度収支差額			**△ 582,131,664**	**△ 419,531,873**	**△ 162,599,791**
前年度繰越収支差額			**△ 5,145,041,278**	**△ 5,145,041,278**	**0**
基本金取崩額			**50,000,000**	**50,000,000**	**0**
翌年度繰越収支差額			**△ 5,677,172,942**	**△ 5,514,573,151**	**△ 162,599,791**

（参考）

事業活動収入計	**4,385,820,292**	**4,457,471,525**	**△ 71,651,233**
事業活動支出計	**4,379,670,600**	**4,357,174,739**	**22,495,861**

注　記

１．退職給与引当金特別繰入額は、「退職給与引当金の計上等に係る会計方針の統一について」(平成23年2月17日付け22高私参第11号文部科学省高等教育局私学部参事官通知)に基づく変更時差異222,621,180円について平成23年度から10年で均等に繰り入れた額である。

２．予備費の使用額の内訳は、下記のとおりである。

人件費	(6,887,864)
役員報酬	201,604
退職金	6,686,260
教育研究経費	(2,853,678)
衛生清掃費	370,245
報酬・委託・手数料	2,483,433
管理経費	(508,458)
旅費交通費	478,513
車両燃料費	18,114
諸会費	8,490
会議費	3,341
合　　計	(10,250,000)

貸　借　対　照　表

平成３１年３月３１日

（単位：円）

資　産　の　部			
科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
固定資産	**13,684,517,266**	**13,569,681,319**	**114,835,947**
有形固定資産	**12,576,124,185**	**12,235,985,733**	**340,138,452**
土　　地	2,623,016,080	2,372,352,196	250,663,884
建　　物	8,092,729,569	7,802,588,868	290,140,701
構　築　物	432,673,316	400,957,089	31,716,227
教育研究用機器備品	580,444,976	563,342,149	17,102,827
管理用機器備品	34,231,705	37,898,250	△ 3,666,545
図　　書	748,072,999	738,135,297	9,937,702
車　　両	64,955,540	58,948,531	6,007,009
建設仮勘定	0	261,763,353	△ 261,763,353
特定資産	**1,092,000,000**	**1,312,000,000**	**△ 220,000,000**
第２号基本金引当特定資産	0	50,000,000	△ 50,000,000
第３号基本金引当特定資産	200,000,000	200,000,000	0
退職給与引当特定資産	9,000,000	9,000,000	0
設備資金引当特定資産	122,000,000	107,000,000	15,000,000
減価償却引当特定資産	761,000,000	946,000,000	△ 185,000,000
その他の固定資産	**16,393,081**	**21,695,586**	**△ 5,302,505**
電話加入権	2,856,908	2,856,908	0
施設利用権	129,600	0	129,600
ソフトウェア	7,254,973	9,682,540	△ 2,427,567
有価証券	5,619,410	5,619,410	0
長期未収入金	0	3,063,538	△ 3,063,538
敷　　金	209,000	150,000	59,000
預　託　金	223,190	223,190	0
出　資　金	100,000	100,000	0
流動資産	**2,197,621,561**	**2,264,690,242**	**△ 67,068,681**
現　金　預　金	1,822,229,026	2,023,827,631	△ 201,598,605
未　収　入　金	326,671,228	190,929,428	135,741,800
貯　　蔵　　品	197,830	199,400	△ 1,570
立　　替　　金	5,077,330	5,031,950	45,380
仮　　払　　金	345,000	0	345,000
前　　払　　金	11,064,478	7,854,535	3,209,943
修学旅行費積立預金	23,856,100	29,365,124	△ 5,509,024
販　売　用　品	8,180,569	7,482,174	698,395
資産の部合計	**15,882,138,827**	**15,834,371,561**	**47,767,266**

負　債　の　部			
科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
固定負債	**1,769,280,755**	**1,780,478,610**	**△ 11,197,855**
長期借入金	1,264,440,000	1,317,593,538	△ 53,153,538
長期未払金	76,089,996	51,787,944	24,302,052
退職給与引当金	428,750,759	411,097,128	17,653,631
流動負債	**615,567,228**	**656,898,893**	**△ 41,331,665**
短期借入金	53,153,538	59,627,486	△ 6,473,948
未　払　金	108,334,711	95,703,276	12,631,435
前　受　金	323,473,052	383,758,737	△ 60,285,685
預　り　金	106,748,459	88,442,902	18,305,557
仮　受　金	1,368	1,368	0
修学旅行費積立預り金	23,856,100	29,365,124	△ 5,509,024
負債の部合計	**2,384,847,983**	**2,437,377,503**	**△ 52,529,520**

純　資　産　の　部			
科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
基本金	**19,011,863,995**	**18,542,035,336**	**469,828,659**
第１号基本金	18,528,863,995	18,023,035,336	505,828,659
第２号基本金	0	50,000,000	△ 50,000,000
第３号基本金	200,000,000	200,000,000	0
第４号基本金	283,000,000	269,000,000	14,000,000
繰越収支差額	**△ 5,514,573,151**	**△ 5,145,041,278**	**△ 369,531,873**
翌年度繰越収支差額	△ 5,514,573,151	△ 5,145,041,278	△ 369,531,873
純資産の部合計	**13,497,290,844**	**13,396,994,058**	**100,296,786**
負債及び純資産の部合計	**15,882,138,827**	**15,834,371,561**	**47,767,266**

注　記

1．重要な会計方針

（1）引当金の計上基準

徴収不能引当金

未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

退職給与引当金

退職給与引当金の算定方法は、次のとおりである。

（法人本部） （聖カタリナ大学） （聖カタリナ大学短期大学部）	退職金の支給に備えるため、期末要支給額327,310,700円の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。 なお、「退職給与引当金の計上等に係る会計方針の統一について」(平成23年2月17日付け22高私参第11号文部科学省高等教育局私学部参事官通知)に基づく変更時差異222,621,180円については、平成23年度から10年で毎年度均等に繰り入れている。
（聖カタリナ学園高等学校）	期末要支給額325,420,429円と愛媛県私立学校退職金社団よりの交付金321,109,236円との差額を計上している。
（京都聖カタリナ高等学校）	期末要支給額102,615,400円と京都府私学退職金財団よりの交付金101,840,400円との差額を計上している。
（光ヶ丘女子高等学校）	期末要支給額302,389,067円は愛知県私学退職基金財団よりの交付金と同額であるため、退職給与引当金は計上していない。
（聖マリア幼稚園） （聖家族幼稚園） （聖カタリナ幼稚園） （ロザリオ幼稚園） （聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園）	各幼稚園は、各府県私学退職金団体よりの交付金と同額であるため、退職給与引当金は計上していない。

（2）その他の重要な会計方針

有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法は移動平均法に基づく原価法である。

預り金その他経過項目に係る収支の表示方法

預り金、立替金、仮払金、仮受金、修学旅行費積立預り金に係る収入と支出は相殺して表示している。

食堂その他教育活動に付随する活動に係る収支の表示方法

補助活動に係る収支は純額で表示している。

2．重要な会計方針の変更等

なし

3．減価償却額の累計額の合計額　6,967,085,073 円

4．徴収不能引当金の合計額　2,872,500 円

5．担保に供されている資産の種類及び額

担保に供されている資産の種類及び額は、次のとおりである。

土　　地	774,133,950円
建　　物	2,019,571,089円

6．翌会計年度以降の会計年度において基本金への組入を行うこととなる金額　1,024,586,744円

7．当該会計年度の末日において第４号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第４号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8．その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

（1）有価証券の時価情報

①　総括表

（単位　円）

	当年度(平成３１年３月３１日)		
	貸借対照表計上額	時　　価	差　　額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	5,619,410	19,669,192	14,049,782
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	0	0	0
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
合　　計	5,619,410	19,669,192	14,049,782
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	5,619,410		

②　明細表

（単位　円）

種類	当年度(平成３１年３月３１日)		
	貸借対照表計上額	時　　価	差　　額
債券	0	0	0
株式	5,619,410	19,669,192	14,049,782
投資信託	0	0	0
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合　　計	5,619,410	19,669,192	14,049,782
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	5,619,410		

（2）通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース物件の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
教育研究用機器備品	54,492,126円	23,364,654円
管理用機器備品	23,131,008円	13,874,112円

（3）純額で表示した補助活動に係る収支

純額で表示した補助活動に係る収支の相殺した科目及び金額は次のとおりである。

（単位　円）

支　　出	金　　額	収　　入	金　　額
人件費支出	2,548,471	補助活動収入(売上高)	265,293,746
管理経費支出(経費支出)	179,016,004	受取利息･配当金収入	224
		雑収入	14,796,996
計	181,564,475	計	280,090,966
純額			98,526,491

（4）退職給与引当金の計上

「退職給与引当金の計上等に係る会計方針の統一について」(平成23年2月17日付け22高私参第11号文部科学省高等教育局私学部参事官通知)に基づく変更時差異は222,621,180円、退職給与引当金特別繰入額の累積額は178,097,180円、繰入年数は10年、経過処理年数は8年である。

財　産　目　録

平成３１年３月３１日

学校法人聖カタリナ学園
（単位：円）

１．資　産　の　部	
科　　目	金額
固 定 資 産	**13,684,517,266**
有形固定資産	**12,576,124,185**
土地	2,623,016,080
建物	8,092,729,569
構築物	432,673,316
教育研究用機器備品	580,444,976
管理用機器備品	34,231,705
図書	748,072,999
車両	64,955,540
特定資産	**1,092,000,000**
第３号基本金引当特定資産	200,000,000
退職給与引当特定資産	9,000,000
設備資金引当特定資産	122,000,000
減価償却引当特定資産	761,000,000
その他の固定資産	**16,393,081**
電 話 加 入 権	2,856,908
施 設 利 用 権	129,600
ソフトウェア	7,254,973
有 価 証 券	5,619,410
敷金	209,000
預託金	223,190
出資金	100,000
流 動 資 産	**2,197,621,561**
現金預金	1,822,229,026
未収入金	326,671,228
貯蔵品	197,830
立替金	5,077,330
仮　　払　　金	345,000
前払金	11,064,478
修学旅行費積立預金	23,856,100
販売用品	8,180,569
資産の部合計	**15,882,138,827**

２．負　債　の　部	
科　　目	金額
固 定 負 債	**1,769,280,755**
長期借入金	1,264,440,000
長期未払金	76,089,996
退職給与引当金	428,750,759
流 動 負 債	**615,567,228**
短期借入金	53,153,538
未払金	108,334,711
前受金	323,473,052
預り金	106,748,459
仮受金	1,368
修学旅行費積立預り金	23,856,100
負債の部合計	**2,384,847,983**

３．差引正味財産	**13,497,290,844**

上記は財産目録に相違ない。

学校法人聖カタリナ学園
理事長　中　田　　婦　美　子

COPY

令和元年5月18日

平成30年度監事監査報告書

学校法人聖カタリナ学園　理 事 会殿
同　　評議員会殿

学校法人聖カタリナ学園
監 事
森 本 三 義
監 事
則 久 秀 行

私ども学校法人聖カタリナ学園の監事は、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人聖カタリナ学園寄附行為第 11 条第 2 項の規定に基づき、平成 30 年度(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)における業務並びに財産の状況について監査しました。

その結果につき、下記の通り報告いたします。

記

1. 監査の概要

私たちは監査に当たり、理事会及び評議員会、その他重要な会議に出席するほか、理事及び職員等から事業の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、内部監査担当者から内部監査結果を聴取しました。また、会計監査人(愛光監査法人)と連携を図り、計算書類について検討するなど、必要と思われる監査手続きを実施しました。

2. 監査の結果

(1)学校法人聖カタリナ学園の業務に関する決定及び執行は適切であると認めます。

(2)本法人の計算書類、すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表(固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表を含む。) 並びに財産目録は、会計帳簿の記録と合致し、本法人の収支及び財産の状況を正しく表示していることを認めます。

(3)所轄庁または理事会及び評議員会に報告すべき本法人の業務または財産に関し不正の行為、または、法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以 上